

三十周年誌



相武台歴史同好会

三十周年誌

相武台歴史同好会

相武台歴史同好会 三十周年誌

目 次

三十周年誌発行に際して

相武台歴史同好会 会長 矢野 健治 1

相武台歴史同好会30周年を祝う

相模原市教育委員会教育局生涯教育部長 大貫 英明 2

『30年記念誌』の発刊おめでとうございます

相模原市立相武台公民館館長 平片 勝美 3

相武台歴史同好会の思い出～心に残るあの言葉

相模原市教育委員会学芸員 柳川 雅史 4

10周年までの記録（昭和55年～平成元年） 7

誕生の頃の思い出 竹野 和嘉子 8

昭和55年 9

昭和56年 10

昭和57年 10

昭和58年 11

昭和59年 12

昭和60年 12

昭和61年 13

昭和62年 13

昭和63年 13

平成元年 14

10周年からの記録（平成2年～平成21年） 15

平成2年 16

平成3年 19

平成4年 21

平成5年	23
平成6年	26
平成7年	30
平成8年	33
平成9年	37
畑地かんがい用水の今	38
平成10年	54
平成11年	54
平成12年	54
平成13年	55
平成14年	56
語り継ぎたいわが町の歴史（相武台公民館館報より）	57
平成15年	66
平成16年	71
思い出で綴る相武台の変遷（『相模原の自然と文化』第25号より）	72
平成17年	78
平成18年	83
平成19年	88
平成20年	93
平成21年	98
会員の言葉	103
旧会員	104
現会員	112
在籍者一覧	121
平成22年度会員	122
あとがき	123

表紙写真 勝坂遺跡 復元住居

題字 永田 カズヨ

三十周年誌発行に際して

相武台歴史同好会

会長 矢野 健治

相武台歴史同好会が発足したのは30年前の昭和55（1980）年です。1月、相武台公民館で金井利平先生の「私達の住んでいる町のルーツを探ろう」という歴史講座があり、終了後直ちに「相武台のルーツを探ろう」と8名の有志が発足しました。

昭和55年。年表を見てみると、「元ビートルズのジョン＝レノンがニューヨークで射殺された」「モスクワオリンピックが開催されたが、日本は政治上の理由で不参加を決定」とあります。相武台では「昭和51年に相武台中学校、北相武台小学校が開校。54年、グリーンパーク完工、入居」とあり、相武台地区が急激に市街化した頃でした。

発足当初は、講師を招いての「学習会」と「史跡めぐり」を精力的に続けていました。その後、年間のテーマを決め、それに沿って訪問したり、調査したりする活動も加え、現在に至っています。

この永い間、会が脈々と継続されたのは、先輩方の熱意と努力の賜です。敬意を表するとともに誇りに思っています。

これはまた、市教育委員会、文化財保護課、文化財研究協議会、さらに相武台公民館をはじめとする地域の方々のご支援のおかげでした。厚くお礼申し上げます。また、疑問をもって訪れた私たちにいろいろな事を温かく答えてくださった方々に厚くお礼申し上げます。新たな事を知る喜びが私たちに大きな力を与え前進させてくれました。

そして現在、この永い歴史と伝統のある会をどう継承し、発展させていけばいいのか身の引きしまる思いです。

相武台歴史同好会30周年を祝う

相模原市教育委員会

教育局生涯教育部長 大貫 英明

相武台公民館の歴史講座の卒業生によって組織された、貴会が30周年を迎えるに際し、お祝いとお礼を申し上げます。

貴会が組織された間際、まだ若かりし私が担当する橋本遺跡の発掘現場に見学に来ていただいたことを昨日のように記憶しています。昭和50年代には郷土史や自然を学ぶグループが市内には数多くありましたが、貴会はそのなかでも若々しい団体として誕生し、史跡めぐりや学習会などを定期的実施されておりました。

貴会の特色は、会員の話し合いにより学習テーマが定められ、みんなで役割を分担し、一年を通し、あるいは数年をかけて継続的にテーマが掘り下げられていたことです。他のグループの多くが、リーダーの高齢化などにより徐々にその活動を狭めていったのとは対照的な活動でした。

生涯学習がもてはやされる今日、個人の趣味や個人の生きがい为满足させるだけの学習が多いなか、貴会の生活者としての「なぜ？」という疑問に始まる、集団の話し合いによる継続的な学習活動は、個人的な趣味を越え、地域の社会的課題がきちんと据えられたものばかりです。そして、学習の成果を自己満足のものとし、忘れられた歴史のなかに忘れてはならない事実を、公民館活動や市の文化財展などを通じ、地域住民や市民に普及する教育活動を学習のまとめとしております。

こうした学習の成果は、市の博物館設立や、文化財保護条例改正を支える市民活動としてみごとに結実しており、お礼を申し上げるしだいです。

これからも市民文化発展のため、自負をもった活動の継続をお願い申し上げます。

『30年記念誌』の発刊おめでとうございます

相模原市立相武台公民館
館長 平片 勝美

相武台歴史同好会が発足され30年 ここに記念誌を発刊されますことを心からお慶びもうしあげます。

この相武台の景観も日一日として同じではありません。畑地が住宅地になり、数軒の平屋が大きなビルに変わったりしています。また人々も同じです。年々歳々花相似たれどもめぐり合える人々は常に変わっています。 当会でも中心となりご活躍された方で既に鬼籍に入られた方もあって移りゆく 時の早さと世の無常を痛感いたします。 然しながら、その時々の人々のめぐり合いを大切に育み 只ひたすら歴史研究に打ち込んでこられた皆さんに敬意を表します。身近に題材を求め、資料の収集をし 現地におもむき その裏づけを取られるみなさんの地道な作業には頭が下がります。申すまでもなく変わり行く世相、時の流れと情景 事件などを記憶や資料に基き正確に記録にとどめ後世に伝えることは必要にして且つ崇高な作業といえます。 今だから正確なことが知りえた 明日では遅すぎた そんな場面に直面されたこともあるのではないのでしょうか

また その記録保持の方法も古くは石、木簡 紙に始まり今やデジタルカメラやMDへと変わりました。 しかも現在のそれ等記録寿命は100年200年とも言われるようになりました。こうした新しい文明の利器を駆使し 貴重な成果を残していただきたいと思います。 これからも皆さんの研究成果の発表を楽しみにいたしております。 ご発展をお祈り致します。

相武台歴史同好会の思い出～心に残るあの言葉

相模原市教育委員会

学芸員 柳川 雅史

相武台歴史同好会の創立30周年を心よりお慶び申し上げます。

相模原市教育委員会で文化財保護に従事していた16年間、私は同会とともに郷土の歴史について勉強させていただきました。この間、皆様のおかげで様々な思い出をつくることができました。ここにそのいくつかをご紹介します、お祝いの言葉に代えさせていただきますと思います。

昭和59年、本庁勤務となった私の最初の職務は「相模原市文化財研究協議会」の事務局でした。今でも覚えています。最初の役員会の時でした。気難しそうなおじさん（失礼！）に囲まれ、いくぶん緊張する私に元気のよいおばさんが声をかけました。「あんたが今度の担当者かい。がんばりなよ」。相武台歴史同好会の当時の副会長、久保田浩子さんでした。以来、久保田さんは何かにつけ、私を励まし、そして支えてくれました。その年の「文化財展」は相武台公民館が開催会場でしたが（当時は公民館を巡って会場としていました）、ホスト役であった同会の活躍で大成功に終わったことは言うまでもありません。

翌年は研究協議会が創立してから10年目の節目でした。そこで私は各会の会長に、地域ごとに史跡めぐりや講座などを実施し、広く市民に会の存在をPRすることを提案しました。しかし、なかなか良い返事がもらえません。その時に「いいじゃない。やりましょうよ」と皆に勧めてくれたのも久保田さんでした。同会では勝坂周辺の史跡めぐりを計画しましたが、うまく資料が作れないということで、私がお手伝いをさせていただきました。蒸し暑い公民館の会議室で、久保田さんと2人で夜遅くまで資料のホチキス止め。「あんたにこんなことまでさせて悪いねえ」と久保田さん。いやいや全然悪くないですよ。むしろ楽しかった思い出の一コマでした。

さらに翌年。今度は勝坂峰山にある「溝呂木隧道」の調査に同行させていただきました。相模原の歴史から消えた謎の隧道です。この日のリーダーは会長の宮原最二郎さんでした。宮原さんは皆の先頭を歩き、急な斜面ではロープを手に「これにつかまれ」。そして皆が登り終わると「全員そろっているか。点呼!」。それが妙に大げさで、私は思わず噴き出してしまいました。

しばらくして、私は久保田さんから相談を受けました。「数年続いた鳩川沿いの史跡調査も一通り済んだし。今度は何をテーマにやったらいいかねえ」。私は言いました。「相武台には“畑地かんがい用水”が通っているじゃないですか。あれは貴重な近代化遺産ですよ」。

相武台歴史同好会の30年にわたる活動の中でも、最大の功績はこの「畑地かんがい用水」の調査ではないかと私は思っています。平成10年頃でしたか、数人の会員の方と畑地かんがい用水の西幹線を歩いたことがあります。虹吹分水池から歩き始め、北里大学の西側から総合体育館の裏側へとつづく用水の跡を追うと、円筒型水路が花壇として利用されているのを知ったり、水門がそのまま残されているのを発見したり。意外な事実が目の前に次々と現れ、そのたびに私たちは驚きの声をあげました。ところが調査はここまで。小松会病院の近くまで来たときに何やら急に雲行きが怪しくなり、突然の土砂降り。あわてて相武台公民館に駆け込み、そのつづきは次回へと持ち越されました。記憶が定かではありませんが、確か翌週あたりにその続きを歩いたと思います。

しかし、私が同会に深く関わっていたのはこの頃まででした。平成12年には相模原市民ギャラリーへ配属され、以後10年以上、美術の世界で活動させていただいています。

それでも、私の耳には同会の情報がよく入ってきました。新会長の市川三郎さんがしばしば私のところを訪れ、近況などを話してくださったからです。「文化財展」の開催とギャラリーの特別展の開催時期が毎年重なってしまうため、なかなか顔を出すこともできなくなりましたが、まだ“仲間”として認められているようで、何とも嬉しい限りでした。

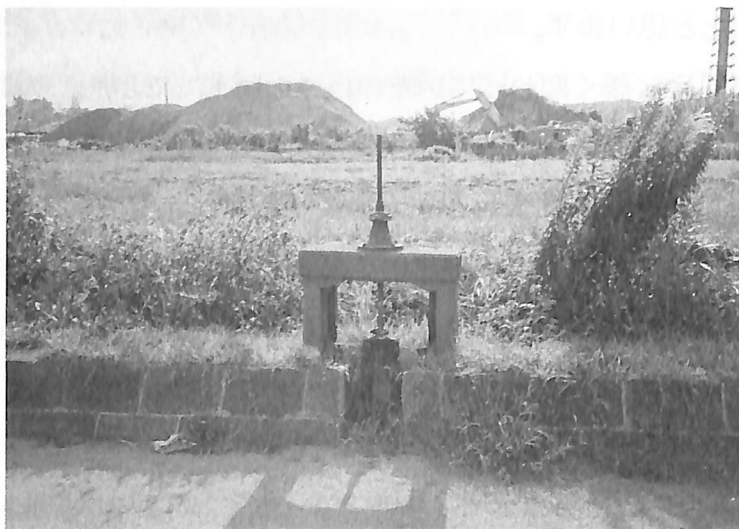
平成15年3月5日、私は久々に久保田さんと対面しました。しかし、その時、私は黒いネクタイを締め、久保田さんは煙の向こうで微笑んでいました。もう何も話しかけてはくれませんでした。私の耳にははっきりとあの元気な声が響いてきました。「あんた、がんばりなよ」。

振り返ると、私の文化財保護時代の思い出には、いつも相武台歴史同好会の皆さんの顔が重なります。文化財研究協議会のそれぞれの会ごとに思い出はありますが、何か相武台歴史同好会には、もっともお世話になったような気がします。それは最初に手がけた「文化財展」が相武台公民館で行われたからであるかも知れないし、一番初めに声をかけてくださったのが久保田さんだったからかも知れません。

美術の世界に身をおきながら、実は今だに郷土史の世界から離れられず、時々、地元の小学校でゲスト教師として地域の歴史を教えています。またいつか、皆さんとご一緒させていただくことがあるかも知れません。その日がくることを待ちながら、そして相武台歴史同好会のますますのご発展を祈念しながら、本稿を閉じさせていたきたいと思います。

最後に・・・久保田さん、ありがとうございます。がんばっていますよ。

(相模原市民ギャラリー学芸員)



10周年までの記録

(昭和55年～平成元年)

誕生の頃の思い出

竹野 和嘉子

ちまたでは、海援隊の「贈る言葉」が — 暮れなずむ町の光と影の中 — と流行し、♪若者用語が、“死んでる” “とんでる” “ださい” 等と持て囃されている頃、相武台出張所の一角の公民館で「私達の住んでいる町のルーツを探ろう」と題し講座が催されました。

私は東京から転勤で昭和47年相武台に住むことになったところでした。一寸外に出ると大山には真白く雪がかかり、すすきが原、桑畑、原っぱの田舎でした。でも夜空を見上げれば東京では見られない素晴らしい満天の星がありました。

今自分の住んでいる土地にも先代の残した歴史がある。それを教えて下さるなんて素敵じゃない、ぜひ、知りたいと思い参加しました。

昭和54年の講座は12月1日から4回、出張所の大会議室で行われました。47名の参加者でした。

講座が終わった時、「このまま終わらせてしまっては惜しい」という声上がり、賛同者が集まって、昭和55年1月19日 宮原晟二郎さんを会長に相武台歴史同好会と名づけられた会が発足しました。

会の生みの親とも言うべき金井利平先生や、長田かな子先生、当時新進気鋭の大貫英明先生の講話の他に史跡めぐりも行って、会の方向が定まってきました。それとともに会員同士の親睦も深まって、素敵な会になっていきました。

昭和55年

1月19日 発足

- ・ 会 名 相武台歴史同好会
- ・ 会 長 宮原晟二郎
- ・ 役員の決定
- ・ 会員名簿の作成
- ・ 会則の作成
- ・ 活動内容決定

歴史講座

- ・ 相模原市の概況（講師 大貫英明先生）
- ・ 古代からの人類の生活（於図書館古文書室 講師 金井利平先生）
- ・ 古代の地質、地形（講師 金井利平先生）

史跡めぐり

- ・ 相武台近辺
- ・ 相模原史跡めぐり
- ・ 南多摩文学散歩（読書友の会主催）
- ・ 東京史跡めぐり（郷土懇話会と共催）
- ・ 橋本、相原地区遺跡見学

個人テーマ設定

- ・ 女性「年中行事について」
- ・ 男性「自由テーマ」

個人テーマについての中間報告

昭和56年

歴史講座 （講師 金井 利平 先生）

- ① 江戸幕府の相模原農村の支配
- ② 家康の江戸入りと相模原・鎖国の実施
- ③ 大化の改新と相模原
- ④ 嶋立庵と相模原
- ⑤ 前の続き 白井鳥酔・相原の小川家・大化の改新により律令政治が確立
- ⑥ 樹徳と伊東方成
- ⑦ 相模原市における江戸時代の旗本
- ⑧ 明治初期における諸改革と世相、社会の動き
- ⑨ 相模原の「中等教育」の移り変わり

史跡散歩

- ・ 相模国分寺他史跡めぐり

個人テーマのまとめ

- ・ 「年中行事について」
- ・ 「自由テーマ」

昭和57年

歴史講座 （講師 金井 利平 先生）

- ① 鳩川農学校創立と変遷
- ② 上溝市場の盛衰と相模原農村の移り変わり（1）
- ③ 県内市場の状況・小作慣行農家の移り変わり

- ④ 相模原に於ける宗教活動 ・ 住民の等級 ・ 日本の宗教
- ⑤ 相模原の歴史と石仏
- ⑥ 仏教伝来 ・ 奈良時代の仏教文化 ・ 法隆寺 ・ 小野妹子 ・ 大化の改新と三韓
- ⑦ 仏教の発達とその移り変わり
- ⑧ 仏教文化の発達と仏像 ・ 彫刻文化 仏像の名称

歴史散策

- ・ 絹の道散策 ・ 石仏めぐり（公民館共催）
- ・ 足柄峠 ・ 地藏堂 ・ 万葉公園他

相模原市文化財展に出品 相模原の石仏めぐり

昭和58年

歴史講座 相武台のルーツを探る

- ・ 戦中戦後の相武台 （講師 手塚 シゲ 氏）
- ・ 大正時代の相武台について （講師 安藤 忠保 氏）
- ・ 陸士移転後の相武台と、終戦直後の相武台 （講師 瀬尾 勇美子 氏）

歴史散策

- ・ 二俣川古戦場
- ・ 町田・相模原の鎌倉街道

文化財展出品 町田・相模原の鎌倉街道

昭和59年

歴史講座 (講師 金井 利平 先生)

- ① 天平文化の発展
- ② 鎌倉時代の新仏教文化について
- ③ 江戸時代田名における2つの越訴事件と一遍上人

※ 4月1日 相武台公民館開館

昭和60年

歴史講座	・ 相模原の開発と発展	(講師 金井 利平 先生)
	・ 南北朝時代と相模原	(")
	・ 小田原北条と相模原	(")

歴史散歩	・ 震生湖、白笹稲荷
	・ 八菅神社
	・ 飯山観音、巡礼峠
	・ 七沢城、浅間山
	・ 三増合戦場、中津川、塩川の滝

文化財展	鳩川を訪ねて (その1)
	支流 道保川

『五周年誌』発行



昭和61年

講演会 家紋について (講師 相原の歴史をさぐる会会長 井上正二氏)

史跡散策 ・ 曾我梅林・ミカンもぎ取り・炭焼き実演見学
・ 愛川町田代半僧坊勝楽寺 ・ 鎌倉を歩く
・ 金沢八景と野島 ・ 目黒自然教育園と等々力溪谷
・ 秦野の史跡 ・ 境川ウォッチング

文化財展 鳩川を訪ねて(その2) 支流 姥川

昭和62年

歴史散歩 ・ 鎌倉散策 ・ 東急世田谷線の史跡
・ 上野公園の史跡 ・ 大磯町の史跡
・ 宮ヶ瀬 ・ 仏果山
・ 相模川の石切場、田名方面 ・ 小野路

文化財展 「鳩川を訪ねて(その3) 本流」

昭和63年

講演会 ・ 新磯・相武台をつなぐ道路今昔 (講師 飯山政行氏)
・ 相武台の道路について (川崎喜代治氏)

歴史散歩 ・ 高蔵寺麻生三輪の里他

・足柄の万葉公園

・金時山

・三の宮比々多神社から聖峰山へ

・ 峰の薬師

・石老山と顕鏡寺

文化財展 キャンプ座間の昔今

文化財研究協議会10周年記念事業の一環として、ふるさと文化財フェア「相模原の南部を歩く」を担当

公民館まつりに参加

平成元年

歴史散歩 ・ 徳川家ゆかりの地を訪ねて

・ひなづる姫の伝説を訪ねて

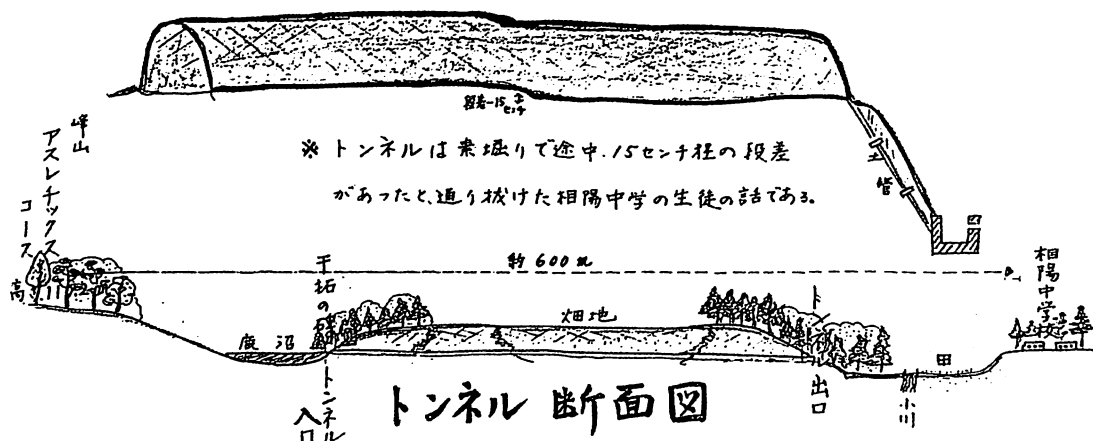
- ・伊勢原に大友皇子の墓、他をたずねる

・城山かたくりの里を訪ねる

・鎌倉、稲村ヶ崎を歩く

文化財展 「鹿沼の干拓」

トンネルの想像図



10周年からの記録

(平成2年～平成21年)

研究テーマ 相模原南部 磯部勝坂の湧水（文化財展出品以下同じ）

相模原台地の上段面は水に乏しく昔はほとんど人が住んでいませんでしたが、それに引替え、台地西端の崖の礫層からは場所によっては豊富な湧水に恵まれて、縄文時代にはもう人が住んでいました。

田名のヤツボ、勝坂の有鹿様の水貰い等は、湧水のなかでも知られていますが、其の他磯部勝坂地区にも湧水が下記の様にあります。

①元ワサビ田 相陽中学校校庭の東端の低湿地帯がワサビ田の跡で、水は崖の礫層や底面から出ていますが湧水量は少なく、ワサビ田を復元したくても無理でしょう。大正の大震災前は現在の礫層より1米位上の礫層から豊富に出ていたそうで、昔は竹の樋で鳩川を越して下の部落は生活用水として使用していたそうです。

②勝坂の曲坂の流れ 曲坂の登り口よりも右手に水路（蓋がしてある）があり音をたてて流れています。流れにそって登ると途中で道と分かれてキャンプのフェンスの中に入り、崖に差込んだ円管から流れ出ていました。

③勝坂の水神様 曲坂の入口より南隣の入口を約5、60米入った左手の一寸引込んだ所です。水量は豊かで昔は生活にかかせなかったのでしょうか。水神様として今でも酒や供物をあげて大事にしています。

④勝坂の有鹿谷 勝坂遺跡D地点西側の雑木林をおりた所に小さい石祠（有鹿様）があり、前の小さな流れを北に進むと林の中、河原石のごろごろする先の崖下の礫層から湧き出ています。流れにはカワナがいますので、私達は毎年、蛍見物に行きます。現在この湧水は昔程の意義もなくなりましたが、4月8日の祭日には掃き清められ酒が供えられて、昔の様に大切にされています。

⑤中村邸の弁天様 水道のない時代、門の横に水槽があり水が溢れ出て近辺の人

ベトロの跡 ナベトロ（相模川の砂利を鍋の形をしたトロッコで昔の座間駅、駅名変更して今の相武台前駅まで運搬した）に沿ってキャンプ内より一寸した流れがあります。見えるのはフェンスの所だけで、あとは埋設された管内を流れています。キャンプ内には昔湧水による水田があり、天狗田といいましたがその排水路にあたります。以前私達は特別にキャンプの奥にある天狗田跡を見に行きました。湧水地点は確かめる事は出来ませんでした、傍の山だと思えます。



- 歴史散歩
- ・ 枳形城址、民家園を訪ねて
 - ・ 座間の古きを訪ねて
 - ・ 古く新しい海老名
 - ・ 三溪園、涼しい日本庭園めぐり
 - ・ 大友皇子の墓を訪ねて（日向薬師）
 - ・ 塩川の滝
 - ・ 栗原神社大祭
 - ・ 尊徳記念館を訪ねて
 - ・ 丹沢湖へ
- 散歩
- ・ 蛍狩り（有鹿谷）



三溪園

研究テーマ 相模野基線

地図、私達は人に道を聞いたり聞かれたりする時、地図を書きます。古代人も獲物の場所を仲間に教えるのに棒で地面に書いたでしょう。

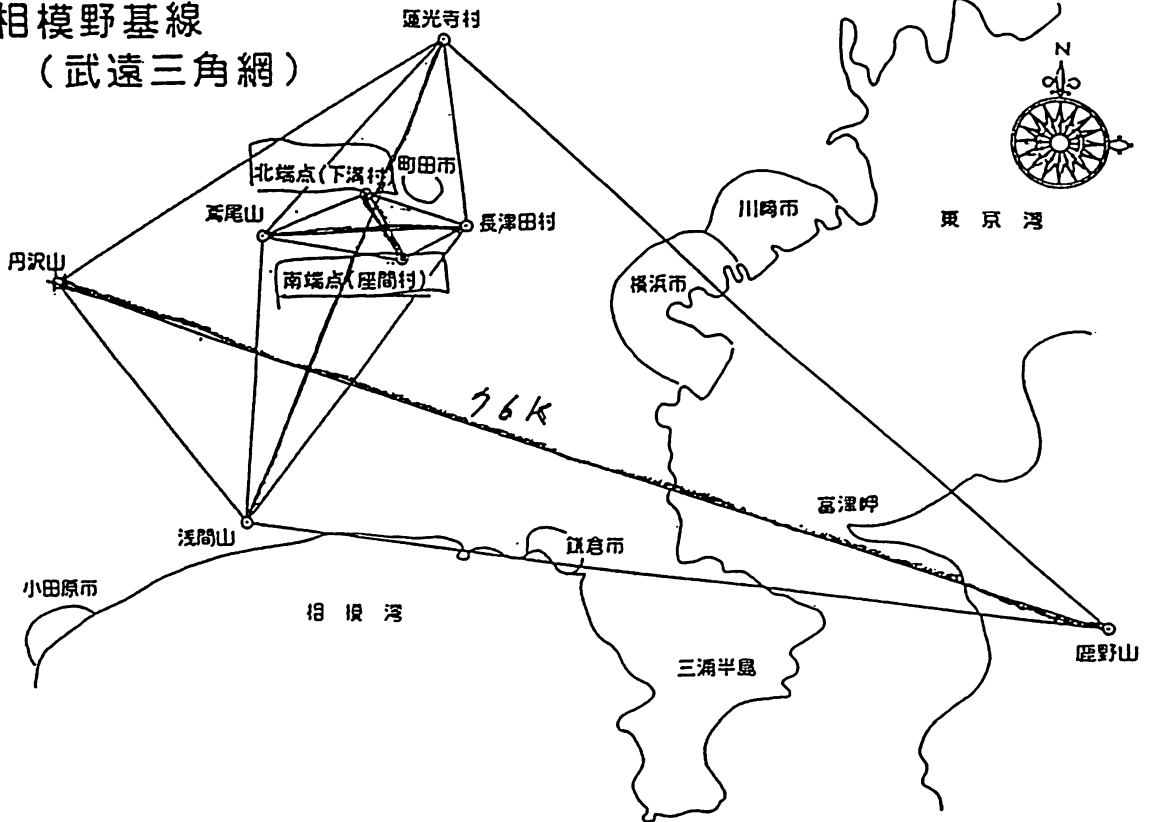
物差で測量したものでは海老名の条里制の田圃、または太閤の検地等は面積を示した地図です。文政4年（1821年）伊能忠敬は大日本沿海輿地全図を作りましたが、日本全体図としては不備な物でした。

明治11年陸軍参謀本部陸地測量部は全国の統一した地図測量の計画を考え、明治12年基本計画をたてました。短期間に完成させる為三角測量を省略して平板による図解測量を基礎にして東京を起点として四方に測量区域を広げた所、次第に測量誤差が集積しました。その程度を測定する為、東京湾を挟んで千葉県と神奈川県をつないで三角測量で比較検定しました。その結果は数値としては残されていません。この地図は迅速図といい、後の正式図と区別しています。しかし明治19年まで続行されました。参考の為相武台近辺を中心とした明治14年の迅速図を展示します。

迅速図は誤差があるので、正確な三角測量を採用する事にしました。それには先ず基線が必要です。条件としては広い平坦な原野で見通しがきく、空気の澄んだ土地でなくてはならず、当時の相模野は現在と違いこの条件にぴったりでした。

明治15年（1882年）3月15日測量の基線を置く事になり、北端点は相模原市麻溝台4丁目2099番、南端点は座間市ひばりが丘1丁目5543番（鳥羽医院）、中間点は座間市相模が丘2丁目17-346番、地先（道路上にありますますが道路には番地はない）全長距離5210m。この両端より長津田の高尾山（横浜市緑区）と厚木市の鳶尾山を測定して距離を出し、次に連光寺（多摩市連光寺日山神社）と浅間山（平塚市）の距離を出しそこから丹沢山と千葉県の鹿野山との距離76kmが実際に一等三角網をつなぐ基線となり、次々と測量をのばしていきます。

相模野基線
(武遠三角網)



- 歴史散歩
- ・金沢八景と金沢文庫
 - ・川崎大師と道祖神
 - ・水と歴史の町、佐倉の国立歴史民族博物館
 - ・箱根の旧街道を歩く
 - ・水元公園と柴又帝釈天へ
 - ・相原の史跡、相模国分寺瓦窯跡かわらけ谷戸を訪ねて
 - ・箱根金時山と箱根路の旅一泊

ふるさと案内（マップ）相武台編発行に協力

『相模原の自然と文化』

「無量光寺を訪ねて」

井上千鶴子

「比企丘陵散策」

戸田千鶴子

研究テーマ 勝坂の有鹿さま

勝坂の史跡D地点の西側一帯の森を有鹿（アルカ）の森と言います。森の中に小さな鳥居と石祠がありこれが勝坂の有鹿様です。社前に小流があり約30米位上流の崖下から湧出しています。この水源を水神様として祀ったのです。約5000年ぐらい前、縄文中期の頃には上の台地に多数の人が住み生活用水としてなくてはならない大事なものでした。この大事な所を縄文時代の人はなんと呼んでいたのでしょうか、字はなくても言葉はあったはずですから想像すればアルカ、アリカと呼んでいたかも知れません。縄文人の生活様式は自然の物にたよる狩猟、採集でした。後世の蝦夷、アイヌの生活様式に似ています。ですから古いアイヌ語を調べると案外わかるかも知れません。次の弥生時代のことは出土品がないので不明ですが弥生人がまだこの辺まで進出していなかったのかも知れません。

古墳時代の4,5世紀頃は稲作も行われて水神として祀られました。その祭祀用具が出土しています。祀った人達は鳩川の下流海老名の水田所有者で水が必要になる頃やってきてお祀りしたのでしょう。そして普段は水源地のアルカの呼名をとってアルカと呼んだのが海老名の有鹿神社の始まりだと思います。有鹿の漢字は万葉仮名と同じで単なる宛字にすぎません。大化の改新で海老名に大水田が出来るとそれにつれて有鹿神社も稲作の神として崇められてきたでしょう。そして勝坂のアルカの水神様は本家として大事にされた事でしょう。この関係が有鹿神社の正式行事になったのは天正3年（1575年）頃といえます。

毎年4月8日有鹿神社の御神体の霊石を御輿に載せて約8軒の道を歩き勝坂の水神様の上の広場に仮宮を建てその中に霊石を安置し6月14日に海老名に戻るものでした。この行事約400年続きましたが近年は相模川の左岸用水が出来て水は充分にあるため、昔の様に水源を確保する必要もなくなりました。そのため現在では4月8日を祭日とし地元の氏子だけで有鹿神社に関係なく行っています。しかし氏子に

サラリーマンが多いため8日前後の日曜日にしています。海老名の有鹿神社のほう
はれっきとした奥宮の行事ですから4月8日には神主が来てとり行います。今では
例え日が会っても一緒に合同して行う事はありません。今の勝坂の有鹿様は海老名
の有鹿神社の奥宮としての縁を切り、本来の水神様アルカとして残っていくのでは
ないでしょうか。

歴史散歩 ・ 相模野基線と目久尻川の水源を訪ねて

・ 藤野町の石楯尾神社を訪ねる

・ 天応院、無量光寺とその周辺

・ 八菅神社、鳶尾山の一等三角点

・ 海老名有鹿神社と小島宮司のお話

・ 紅葉の秋川溪谷を訪ねて

見 学 伊勢原の浄発願寺三重塔立柱式

遺跡見学 下溝方面

『相模原の自然と文化』 「和田合戦と古郡一族」

宮原辰二郎

「本田さんの思い出」

富永ナル子

副会長 本田 徹さん ご逝去

『十周年誌』発行

十周年誌



相模台歴史同好会

研究テーマ 「新磯・相武台地区の坂」

新磯地区 自動車時代の現在、昔の狭い、急な、曲がりくねっていた坂は自動車が走れる様改修され昔の面影はありません。しかし土地の人達によって呼ばれていた名前は今も残っています。名前のいわれとなるとだれに聞いても一致するものと、違うものもあります。

相武台地区 新しく出来た町の坂は地名を冠した道路番号で呼ばれています。

例 相武台小学校の東側の坂は相武台団地16号線の坂、裏門の坂は相武台団地12号線の坂

次の番号は地図の番号と一致します。

- 1 みねん坂 座間キャンプの北側にある峰山（107米）の北にある、「みねん」は峰がなまったもの。
- 2 まがり坂 勝坂にあり土地の人は峰山の南側を通るので1と同じみねん坂とも言っていた。出口は第7ゲート、相武台高校前道あたりです。坂の入口には馬頭世観音や石仏の石碑が今も残り昔の坂が偲ばれます。生活道路として早く復活させたいものです。（キャンプの為閉鎖）
- 3 上の大坂 新磯高校の門あたりからキャンプを横断して新磯野西公園あたりに出た坂。（キャンプの為消失）
- 4 下の大坂 陸軍士官学校時代敷地内の為、代替えとして掘下げ一部トンネル（長さ510米）にして利用されています。入口は新戸入口信号から、出口は相武台前郵便局の通りです。
- 5 けなし山の坂 旧三段の滝、現鳩川放水路に跨る新磯橋の坂の事。上の県道付近は、けなし山と言われていたそうです。

- 6 八幡坂 磯部八幡宮の横にある坂
- 7 ねこ坂 七戸橋から勝坂に行く道にある坂、最近改修されて大変明るい坂になりましたが、以前は道幅も狭くて樹木が覆いかぶさり昼間でも暗い坂でした。猫が踊っていたという言伝えがあります。
- 8 順光寺坂 七戸橋から県道を渡って西に行く道の坂。昔この付近に順光寺という寺があったので言われています。いつ頃か廃寺となり、今ではあった場所も不明です。寺はなくなっても名を残す一例です。
- 9 三年坂 常福寺の横にある坂、座間にも同名の坂があります。転ぶと3年以内に不幸があるからと言われています。
- 10 長屋の坂 4の道で県道を渡って新戸へ入る所の坂。坂上の角の田中さんの家を土地の人は長屋と呼びます。昔田中さんの家はずっと離れた下の方にありその時には長屋門があったので長屋と呼ばれたとの事です。別のいわれもありますのではっきりしません。
- 11 どんどん坂 新戸2020番地梅沢さんの家の前の坂、梅沢さんの家は湧水が豊富で滝の様にどんどん流れ出て水車もあったとの事で梅沢さんの家のことを今でも「どんどん」と呼んでいます。又雨が降ると上から溢れた水がどんどん流れたからと言う人もいます。
- 12 辻の坂 長谷川さんの家が角にあったので辻と呼ばれたそうです。昔は家が少ないので目印として使われたのでしょう。また「あげばの坂」とも呼びます。近くに生糸工場が在ったからとの事です。

研究テーマ 村富相武台線

相模原市の中心部と南部を繋ぐ初めての道路です。相模原台地の東、境川筋と西、鳩川沿いには街道がありましたが人家のない台地上には東西を結ぶ道はあっても南北を繋ぐ道はありませんでした。県と市は南北を縦断する重要道路として昭和31年9月24日村富相武台線を都市計画道路として決定、告示しました。昭和33年8月1日首都整備法による市街地開発区第1号に指定されました。

一方道路の方はその後地元説明会、物件調査、用地買収等を経てようやく昭和44年工事施工となりましたがそれ以前の昭和42年1月より入居していた相武台団地住民は団地の真中に1日に何万台も車が通る道路が出来ると初めて聞いて驚きました。当然大反対です。交渉は10年の長期にわたりました。4車線を2車線に変更し、遮音壁を設置し、歩道橋を架け、広場を整備する等で昭和56年5月合意しました。その間付近の住民より団地のエゴだとの非難もありました。昭和60年3月24日供用開始しました。今では主要幹線道路として活用されています。

村富相武台線とは村富神社横と行幸道路（町田厚木線県道51号）との交差点までの道路です。村富神社横—2車線—星が丘交差点—4車線—北里病院横交差点—相武台行幸道路交差点までは県道507号、延長3.8km団地内遮音壁長さ720m 高さ6.8m

沿線の主な建物、施設

①村富神社（矢部2丁目） 今から300年位前4代将軍家綱の延宝年間に相模屋助右衛門がこの辺を開発しました。矢部新田といいここに無名の小さいお稲荷さんがありました。明治の初年、政府が寺社を一斉調査した時、村が富む様に名付けたといいます。狛犬ではなく狐が社前で守っています。周りには村富公園、村富児童館などがあります。

②横浜市水道局相模原沈殿池 粘土でできた土えん堤の貯水池です。昭和29年に

築造され、相模湖より導水して883,000m³の水を貯水することができます。
水深8.5m、湛水面積120,000m² 冬は水鳥が集まりバードウォッチングの名所です。

③県内広域水道企業団浄水場 県と横浜市、川崎市、横須賀市の4つが協力して出来た企業団です。前記の3市と県に水が送られます。酒匂川の飯泉取水せきから水は来ます。昭和49年4月に給水を開始しました。1日に406,600m³処理しています。敷地面積228,055m²、自然のままにしているので兎等がいるそうです。

④南清掃工場 敷地面積47,119m² 竣工昭和55年12月1日 総工費75億円 処理方式 三菱マルチン連続燃焼式 処理能力 600t/24h (200t/24h×3基) 常用400t/24h 煙突高さ80m 直径底面9m 上部6m は外壁で内に本当の煙突1,45mが3本

⑤市民健康文化センター 敷地面積8,186m²、竣工昭和58年11月 総費用約19億円、温水プール、浴室、トレーニング室、健康相談室、大広間等大変利用されています。

⑥県立相模原公園 敷地面積237ha、大温室、緑の相談所、緑の街、噴水広場、リリちゃん橋その他色々あり、赤ちゃんをつれたお母さん達も多いです。

⑦市立麻溝公園 106ha ふれあい動物広場は子供に大人気、高さ55mの展望台(展望室は38m)は丹沢山塊、富士山、東京、横浜方面も見えます。

⑧市立総合体育館 敷地面積27,622m² 大、中、小の3つの体育室、柔剣道と洋の弓道室、トレーニング室、幼児体育室などがあります。竣工昭和56年10月20日 総事業費28億円

⑨横浜市水道道 ②の沈でん池からの水は此処を通り川井浄水場へ送られます。

⑩かんがい用水路 戦後の食糧不足を補う為昭和24年3月相模原開発畑地かんがい事業着工、昭和39年3月事業完成、15年かかって出来た農業用水路は充分活用する間もなく畑地は住宅地に変り今では市民の緑の散歩道になっています。

⑪相武台団地 総面積314,000m² 総戸数2,540戸 人口7,253人（男3,593人女3,660人 平成4年12月1日現在） 入居昭和42年1月24日～44年9月19日
村富相武台線の開通には排ガス、騒音をもろにかぶるとして大反対しました。
併し遮音壁（通称トンネル）を設ける、歩道橋を架ける等で調印しました。

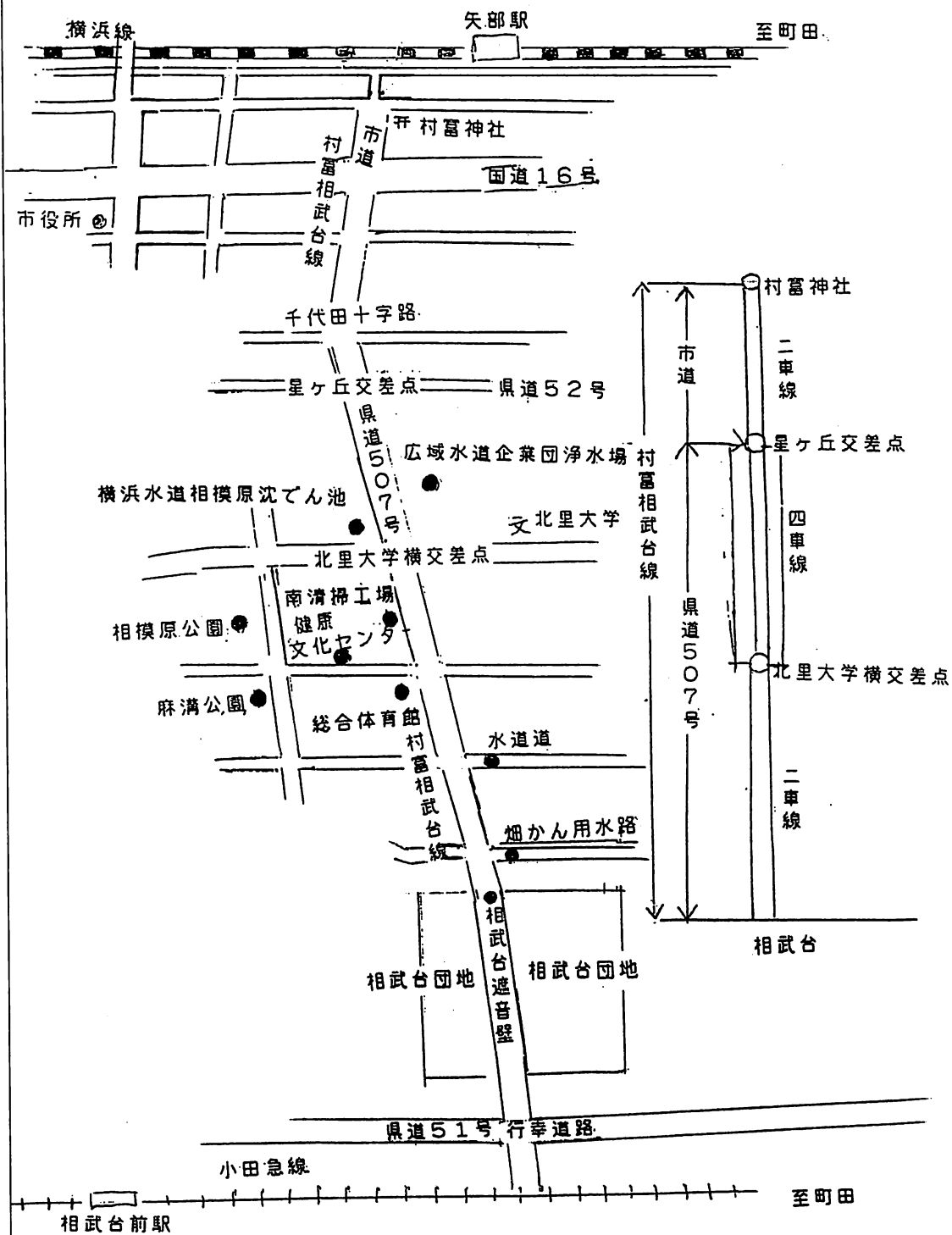
（地図 次ページ）

歴史散歩 ・ 鎌倉を歩く（4）
・ 三ッ池公園観桜会
・ 鎌倉円覚寺特別開帳
・ 八王子絹の道を訪ねて
・ 川越めぐり
・ 秩父・長瀬史跡めぐり
・ 北さがみ路 しろやま
・ 湯河原の史跡と万葉公園

『相模原の自然と文化』 「博物館と私」 久保田浩子

元副会長 永田 二生さん ご逝去

村富相武台線沿線図



研究テーマ 新戸用水

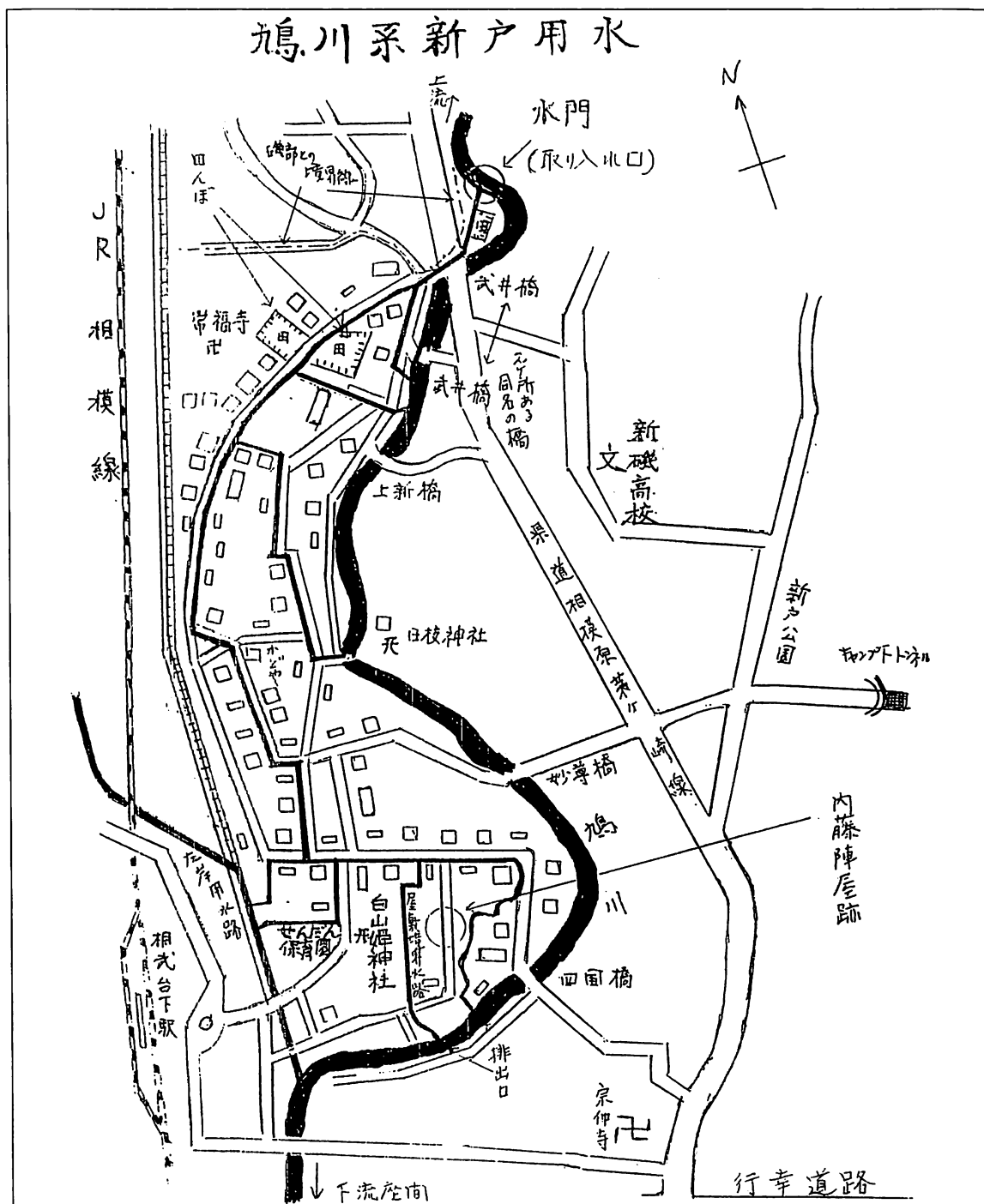
新戸地区の水田を潤す用水は次の 3 ケ所あります。

- ①相模川の五ヶ村用水 この用水の歴史は古く寛文年間（1661～72）に当時の領主久世大和守広之によって始められたと言います。用水は磯部、新戸、座間、新田、入谷の五ヶ村を流れました。現在は相模川左岸排水路となり遠く藤沢の御所見までいっています。
- ②磯部鳩川用水 取水口は鳩川右岸磯部1424番地にあり県道、相模線の下をくぐって磯部八幡宮の坂の北側の水神様横の深い谷を流れて磯部と新戸の水田を潤します。この用水も古くて正徳年間（1711～16）にはありました。水の取分は磯部が 2、新戸が 1 でした。以上の 2 ケ所は共に江戸時代につくられ、他地区との共用です。
- ③新戸用水 取水口は武井橋上流約70米位の所で鳩川（新戸分）が磯部との境界に接する所で川には番地がないので場所は磯部4349－7番地の崖下です。この用水は堰の高さはやく 1.5 米で取水口の幅は 1 米あります。武井橋の下をくぐり、相模線の東側の新戸の高台地区の水田専用です。現在は殆んど住宅地となり、水田は約 1 町歩だけです。水田は消えても用水路は幅67呎の側溝として延々と内藤陣屋跡まで続いています。

上記の①、②の用水は古文書や絵図もあり相模原市史や相模原の史跡等の本で、つくられた時代がわかりますがこの 3 番目の用水は誰が何時つくったのか等は古文書にもなく、土地の古老や人々に尋ねてもわかりませんでした。武井橋付近に「せきばんだい」という所があり、此処の堰と関係があるかも知れません。

また新戸には明治時代、大火が 3 回ありましたが 9 年と 24 年頃ともう 1 回は何時だかよくわからず只 3 回あったという回数だけは皆さん一致しています。火事の時には今と違って水量のあった鳩川（磯部の放水路は昭和 8 年完成、鳩川の水位さが

る)の水を使用したという人や用水を使用したという人、いや火事後に防水用に隣家との間に用水を流したという人もおり、その火事も何回目の火事の時のことだかはつきりしません。今も屋敷と屋敷の境には用水路がありますが用水路は何も語ってくれません。新戸の此処の用水路は本当に謎につつまれたものでした。



歴史散歩 ・大倉山梅林、横浜歴史博物館

・ 巢鴨とげぬき地蔵と王子紙の博物館

・ 山梨県大月市の猿橋と岩殿山

・ 鎌倉大仏、長谷観音、銭洗い弁天、名月院

・ 箱根大涌谷、自然科学博物館、芦の湖、関所跡、資料館、姥子一泊

『相模原の自然と文化』

「今に伝わる水貫いの神事」

三井 博男

相武台公民館まつりに参加

郷土史跡マップ制作

宮原会長「座間美都治賞」受賞



研究テーマ 磯部の屋号・呼名と大山道

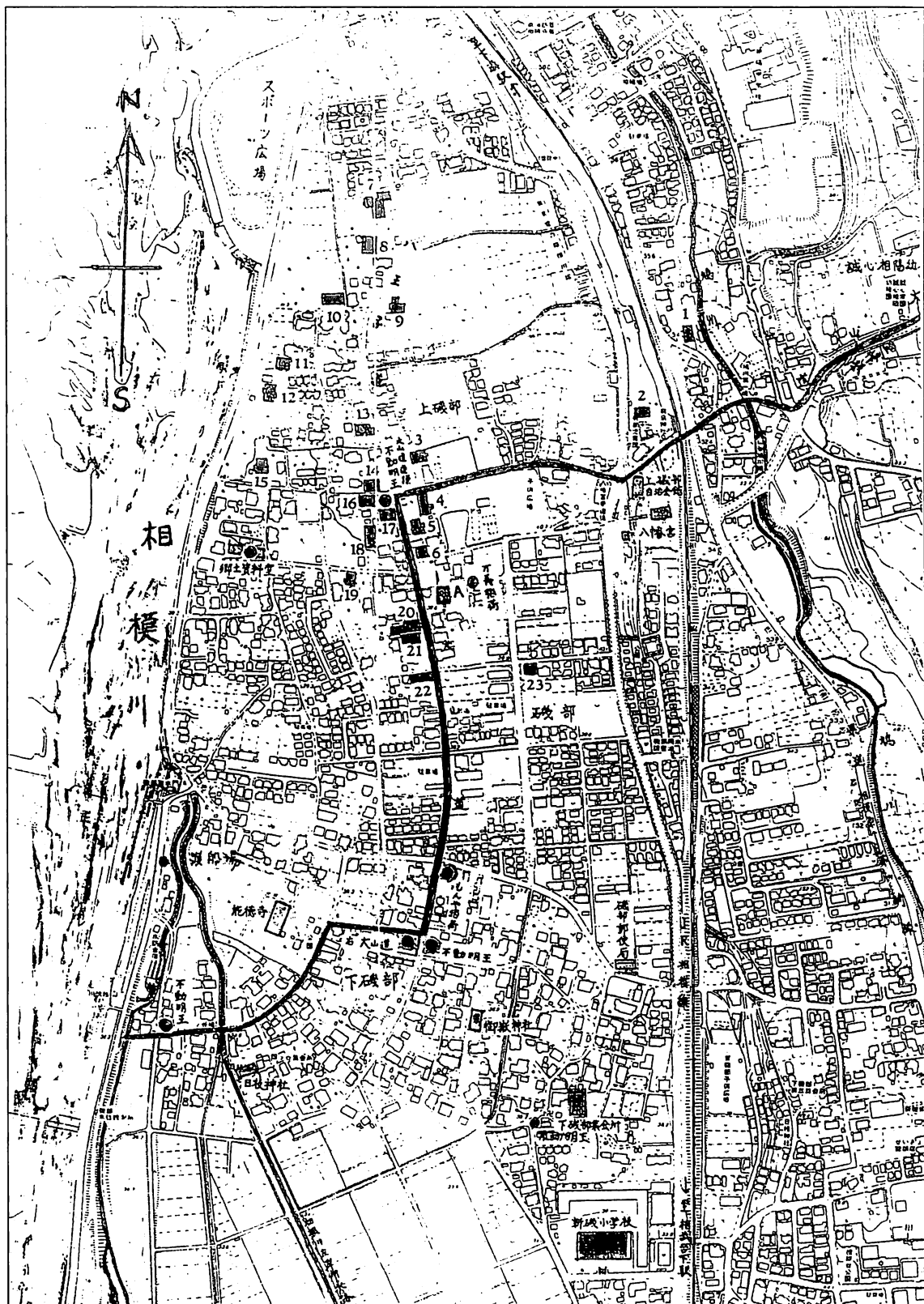
本会では今まで主に市内の史跡の調査を手がけてきました。今回は磯部の大山街道について、その地域に伝わる「屋号・呼名」を調べることにしました。従来のように形のあるものと違い無形のものなので、聞き取りを主とした研究で、戸惑うこともありました。屋号・呼名と言うと商店を連想しますが普通の民家なのです。古い住人の間ではお互いに通用しています。いろいろ聞いて23だけ確認できました。取材に伺った中には記録が火事で失われたお宅もありました。どのお宅も非常に協力的で貴重なお話を伺うことができ、また大切な品物もお借りできました。今の大山道は近代的な道路となり昔の影はなく、僅かに不動明王の坐像、石の道標で知るだけです。磯部の町は広い敷地の農家、緑の林、竹林そして史跡も伝説もあり、静かな環境の良いところだと感じました。

なお、今回は初めての試みとして、磯部の夏の行事「磯部の灯籠流し」と「磯部の帆掛舟」のビデオ放映も行います。

大山道、八王子道のある磯部は相模川に沿う宿場でした。同姓の家が多いので屋号、呼名が今でも古い人達の間で通用しています。併し現在では屋号、呼名の仕事をしている家は一軒も有りません。大山道の道標や不動明王の石像が有り、磯部八幡宮は大山参りの人で賑ったそうです。

- | | | | |
|---|-----|-------|--------------------------|
| 1 | 油 屋 | 溝呂木健治 | 鳩川に水車をかけて製粉、製油をしていた。 |
| 2 | 隠 居 | 田所 新一 | 18柏屋の年寄りが住んでいた。 |
| 3 | 湯 屋 | 田所 武弘 | 宿屋に泊まった人や農作業を終えた人達が利用した。 |
| 4 | こう屋 | 田所 輝夫 | 紺屋、染物屋で型紙、藍瓶が今も有ります。 |

- | | | | |
|----|-------------------|-------|--|
| 5 | ブリキ屋 | 大家 マサ | ブリキ加工、修理。 |
| 6 | 鍛冶屋 | 村上 善充 | 鍛冶一般の制作、修理。 |
| 7 | 蒟蒻屋 | 金子 和利 | 蒟蒻を製造、販売していた。 |
| 8 | 酒 屋 | 金子 孝 | 作り酒屋で小売もしていた。 |
| 9 | 柄杓屋 | 溝呂木 孝 | 柄杓や曲げわっぱを作っていた。 |
| 10 | 竹 屋 | 金子 武正 | 竹材を販売していた。 |
| 11 | 玉子屋 | 城条 博 | 玉子を横浜方面に販売していた。 |
| 12 | 河 岸 ^{かし} | 田所 金源 | 家が川岸にあったから |
| 13 | 下駄屋 | 大塚 博文 | 下駄製造、修理、販売。 |
| 14 | 大隈屋 | 溝呂木 勇 | 宿場、九州大隈半島出身なので名付けた。 |
| 15 | 奥屋敷 ^{おく} | 田所 幹雄 | 奥はこの辺の方言で「おき」と言う、当家の話では奥は奥様、大奥の様に女性を意味し、昔お姫様が舟遊びの時よく休まれたからとの事です。 |
| 16 | にい屋 | 田所 正平 | 荷屋の事で相模川を航行した船の積荷の保管場所。 |
| 17 | 白木屋 | 田所 武治 | 宿や、18柏屋の字を分解して屋号とした。 |
| 18 | 柏 屋 | 田所 範高 | お代官とも呼ばれるが名主、先祖は小田原北条の武士、庭にお仕置石が有る。 |
| 19 | 横 丁 | 田所喜代治 | 表通りから入った横丁にあるから。 |
| 20 | 吉野屋 | 野口 秀勇 | 宿屋 |
| 21 | 表具屋 | 野口 計三 | 表具制作、販売、修理。 |
| 22 | まんじ屋 | 川崎 光司 | 昔のまんじ屋（卍屋）の傍系だが、むじなが書いたと言う、南無阿弥陀仏の掛軸を所蔵している。 |
| 23 | 尾張屋 | 田所 クニ | 宿屋 |
- 昔のまんじ屋の跡地に万寿稲荷が有ります。地図のA地点がその場所です。



- 歴史散歩
- ・市立博物館と矢部八幡宮、湊辺義博居館跡を訪ねて
 - ・矢部、湊野辺の史跡を訪ねて
 - ・秦野市自然観察の森・桜土手古墳展示館見学
 - ・八王子城址と北条氏照の墓を訪ねて
 - ・九品仏、等々力溪谷を訪ねて
 - ・奥多摩湖周辺を訪ねて 一泊の旅



九品仏 浄真寺

『相模原の自然と文化』

「経ヶ岳の思い出」

久保田浩子

平成9年という年は相武台歴史同好会にとって一つの試練の年でした。会長の宮原氏が退会し、外にも多数の会員が辞めて行ったのです。残った会員6名。どうなることかと危ぶまれました。

そんな時に、当時相模原市教育委員会文化財保護課主査だった柳川さんから、畑地かんがい用水路の話がありました。「相模原市は今年麻溝台・新磯野土地区画整理事業の利用計画の概要を決定した。事業が進むと、むかし使用されたままに残されている『畑かん』の用水路跡や、放置されているヒューム管などが埋没・撤去されてしまうおそれがある。相模原市開拓の歴史上からも貴重な文化財である これらの現状を記録しておく必要がある」という主旨の話でした。『畑かん』という名さえ知らない会員も多かった中で、この調査を始めることにしました。

久保田新会長のもと、文献研究、実地調査、聞き取り調査などを繰り返し、市の文化財展に発表しました。

そしてこの調査を5年間続け、文化財展その他で市民に発表しました。

(別掲)

歴史散歩 大野北地区の史跡めぐり

近代遺跡「百米比較室」跡及び相模野基線見学

「百米比較室」関係現地調査

田名向原遺跡・民家資料館・ふれあい科学館・望地弁財天見学

冷泉家の至宝展見学（東京都美術館）

『相模原の自然と文化』

「畑地かんがい用水の今Ⅰ」

久保田浩子

畑地かんがい用水の今

1 畑地かんがい用水とは

人口60万の中核市相模原市も、かつては郊外の静かな農村地帯でした。しかし「八里橋なし」とよばれた相模野台地の農作は米とは縁が遠く、ここに水を引いて水田を開発することは相模原農民の長い間の夢でした。

相模川の豊かな水を引いて来るという計画は、明治初期以降何回も行われましたが実現を見ませんでした。

昭和23年、終戦後の厳しい食糧事情の中で国庫補助のもとに「相模原畑地灌漑事業」が県営事業として推進されることになりました。相模原から藤沢に至る広大な台地に水を引き、陸稲の増収を計ろうとする大規模な計画でした。

相模湖から虹吹までを地下の導水管で水を運び、そこから東西の幹線に分け地上に流しました。そして幹線から支線へと水を流したのです。受益地域は現在の相模原市・座間市・海老名市・綾瀬市・大和市・藤沢市にまたがり、総計約76kmに及ぶ、総工費10億6000万円、16年の歳月をかけての大工事でした。

この畑地灌漑用水路の水を使った栽培には、畑の選定、品種の選定から、年間の作業、刈り取りにいたるまで細かい指導がなされ大きな成果が上がりました。そして新聞等で全国に報道され、たくさんの見学者が訪れたということです。

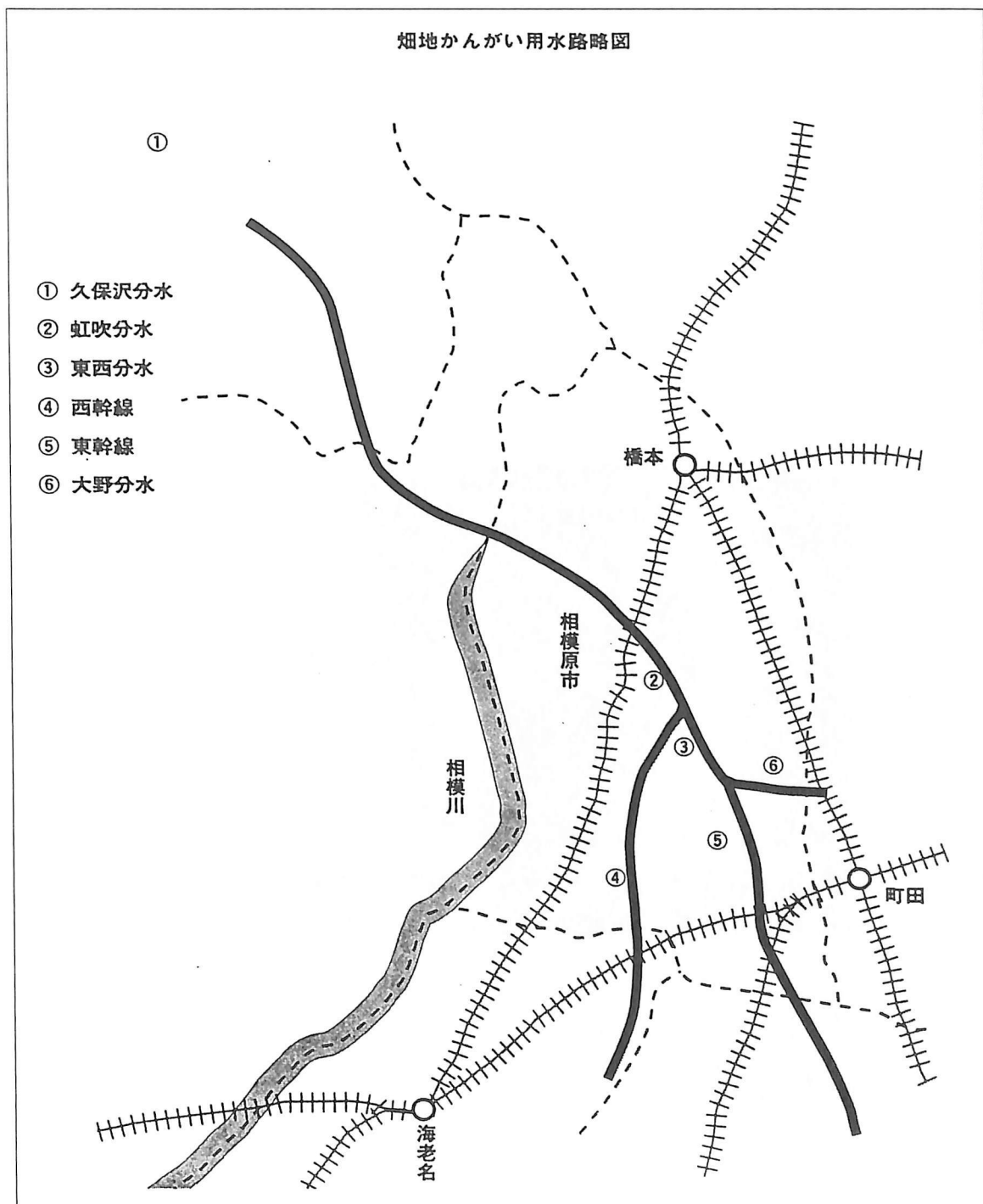
はるばると引き来し水に勢いて

陸稲青みぬ相模ひろはら

当時の相模原町長、小林与次右衛門さんの歌です。今も上溝の小林家の門前に立派な歌碑が建っています。

しかし時代は移り、相模原の土地は農業用地から住宅用地、工業用地へと変わり、この事業は終わりを告げました。現在一部に畑地灌漑用水路の跡や支線から水を流したヒューム管が残っていますが、多くは「仲よし小道」に姿を変えて市民に親しまれています。

今回、相模原市の登録有形文化財として「畑地かんがい用水東西分水工」と「畑地かんがい用水大野支線」が指定されました。このことにより、かつての人々の努力の跡が残され、語り継がれることができることは大変意義のあることだと思います。



2 畑地かんがい用水の今

■ 畑地かんがい用水路の今

畑地かんがい事業が終わりを告げた後、用水路はどのように姿をかえているのでしょうか。

■ 水源地

相模湖は3つのダムが連続し、さらに支川にも関連したダムが作られています。そして、それぞれが水路でつながっています。相模ダムで発電に使った水を沼本ダムに再貯水し、そこから津久井分水池に導いていました。畑地かんがい事業が終わった今も、これらの湖やダムは昔の姿のまま存在しています。私達が訪れた時も沼本ダムの取水口を見ることが出来ました。



取水口（沼本ダム）

■ 津久井分水池

ここから、横浜・川崎の各浄水場へ行く水と農業用水に分けられました。最初の頃は、横浜市の水路を借り暫定的に併用していましたが、その後専用隧道が出来て、

ここから虹吹へと向かったのです。取水口には今も「畑地灌漑用水路取水口」というプレートが残っています。

■ 畑かん水道橋

上溝531番地付近、鳩川にかかっている橋の下に丸くて太い管が通っているのが見えました。地下を通ってきた管がここで川を渡っていたものです。平成14年にこの橋の架け替え工事が行われました。市教委文化財保護室から連絡を頂き、早速見に行ったところ、取り壊した橋の下に畑かんの導水管とおぼしき物がぽっかりと丸い口を空けていました。今は「四ツ谷さくら橋」という新しい橋になっています。

■ 畑地かんがい事業の碑

陽光台7-5972-2-2 横浜水道局虹吹分水場の横に「畑地かんがい事業の碑」が建っています。平成9年秋に初めてここを訪れた時は、高いフェンスに囲まれて中に入れませんでした。蔦や雑草が生い茂り、その中にひっそりと隠れていました。平成11年の秋に行った時には、きれいに草が刈り取られていました。隣家の佐藤さんのご主人と、その息子さんが、蚊の発生を防ぐためもあり、除草して下さったという話でした。久保田会長が管理者について問い合わせ、注意を促したところ、すっかりきれいになりました。



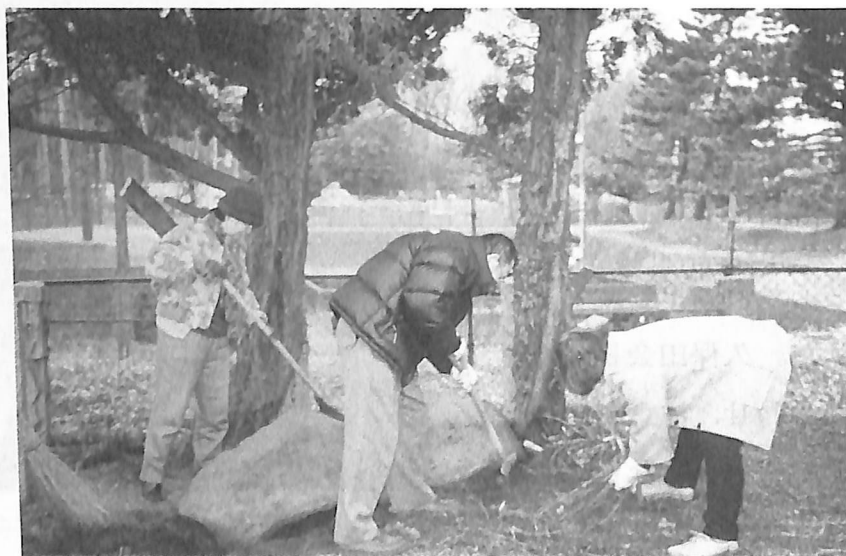
隠れていた事業碑



整備された事業碑

■ 眠っていた石の地図

私たちは何回か虹吹の畑かん事業記念碑を訪ねました。ある日、枯葉の下に何か石のようなものが埋まっているのに気がつきました。何人かで覆っていた葉や草を取り除いてみると、石に彫った地図のようなものが現れました。それは相模原から遠く藤沢のほうまで続く畑かん水路の地図でした。



枯葉の下から石を掘り出す



埋もれていた石の地図

■ 東西分水工

虹吹まで来た水が、どこで地上に出て東西へ分かれて行ったか、この目で見たいといろいろ探しました。それは地図上は青葉地区になっていて、どうも相模原ゴルフクラブの中らしいということでした。無理な願いをして平成12年5月8日にコース内の見学をさせていただきました。地下から水が出てきた流出口と東と西の幹



東西分水工 入口

線に分かれた流出口がきちんと保存されていました。平成15年 相模原市登録有形文化財として指定されました。(私有地のため一般の見学は出来ません)



東西分水工 出口

■ 西幹線跡

畑地かんがい用水路は、相模原ゴルフクラブの中の東西分水工で東と西に2つに分かれ、西幹線はゴルフ場の南を出て北里大学の西側を通り、南清掃工場を経て相模原公園のほうへ延びています。この数年の間に遊歩道に姿を変えてしまいました。県立相模原公園の東側付近には、水こそありませんが当時のままの用水路が残っています。放置された車や自転車など粗大ゴミの捨て場になっているところもありました。現在は少し片付けられたように思います。また、支線の跡やますのような物も残っています。

■ ヒューム管

麻溝台・新磯野には支線に使われたヒューム管があちこちに残っています。



支線に使われたヒューム管

■ 大野分水

大野台7丁目、今は「相模緑道緑地」になっている所に用水路跡が保存されています。「東西分水工」と同様に「大野分水工」として相模原市の「登録有形文化財」として指定されました。

■ 一の窪圃場

麻溝公園前のバス停近くから西へまっすぐに延びる簡易舗装の道路があります。その道は昔の農道で、約300メートル程進むとゆるやかな下り坂になります。更に進むと平らな農地を経て、南北に長く続く堀（深さ幅ともに1.5メートル程）に行く手をさえぎられます。このあたり、県道507号線（相武台村富線）から堀までの間の低い農地を一の窪圃場と呼んでいました。堀は畑かん事業当時の西幹線の跡です。

一の窪は現在は野菜や園芸用の植木畑に、又或いは一部資材置き場などに利用され姿を変えていますが、その昔、昭和26年～40年ごろまで、模範展示圃として、大成功を収め、全国の畑作農民に「干天おそるるに足らず」の自信を植えつけ、世界銀行からの視察や日本全国からの見学者が訪れた、という記念すべき場所でもあります。

面積は約1町歩、団体営（共同管理）で運営し、組合員は総勢11名、いずれも下溝地区に住む青壮年たちでした。「2反の畑に水稻を栽培して、多収穫の新記録を樹立し、畑地かんがいの威力を発揮した」と全国紙に写真入で報道されました。

■ サイホンの跡

相模台5丁目に金網で囲われた所があり、この中にサイホンの跡があります。コンクリートの帯のような物が一度下がりてまた上がっています。畑地かんがい用の水をサイホンを利用して低い所に水を通した跡です。

■ 畑かん桜

相模台の仲よし小道が相模原市から座間市に入り、行幸道路を越えた所に、桜並木があります。この道は途切れながら相鉄線のさがみ野駅のほうへ続いています。

道に立っている説明板には「東原桜並木 この桜は昭和28年栗原地域の芹沢、下栗原・大下地区の農家155戸が、私財を出し合って畑かん水路の完成を記念して植えたとされています・・・・・・座間市」とあり、畑かん桜の由来として語り継がれています。



仲よし小道

3 関係者の話

小山 正吉さん （下溝在住）

ここでは、昔から村祭りなどでは酒まんじゅうやうどんが名物で、米には恵まれませんでした。かつては、3年に一度と言われる日照りや干ばつが常に相模原の農民の生活を脅かしていました。

県北の1200ヘクタールを潤している相模原かんがい用水で、この地でも水稻栽培が可能になり、畑地栽培「尾花6号」という品種で、不利な条件を克服し、水田以上の成績を上げました。「陸稲畑地かんがい栽培指針」という印刷物を、相模原開発畑地かんがい事務所・相模原大和藤沢各農業改良普及所・相模原開発土地改良区で発行し、畑の選定・品種の選定から年間の作業・刈り取り・乾燥にいたるまで細かい指導を行いました。昭和36年9月の神奈川新聞には「2倍の増収は確実・畑かん用水が効果」「夏野菜も5割方増（相模原）」と大きく報じられ、また「510キロ収穫・水稻の畑地かんがい栽培」（読売）「水稻の畑栽培大成功・相模原畑地かんがい威力発揮」（毎日）の記事が載りました。しかし、周囲の急速な変遷により、「畑灌情報」に当時の内山知事が「農工間の調整を図りつつ今後の事業推進については一部の変更はやむを得ない」と述べているように、都市近郊の畑かん事業は、発足当時とは変わった道を進まざるを得なくなったのです。

佐藤力三郎さん （相模台在住）

昭和21年の夏より在住しています。国から畑1町歩と宅地とを与えられました。当時は水もなく、人も動物も住めない位の荒れた陸軍士官学校の練兵場跡でした。戦争から復員してきた次男・三男や陸軍病院の患者で行くところのない人達で双葉開拓団を組織しました。家では井戸を掘りました。20メートルも掘ると水がチョロチョロ出ましたが、すぐ枯れてしまい、井戸屋さんが腰まで水が来ると止め、枯れるとまた少し掘って行き、30メートル位まで掘りました。ポンプは買えず、つるべで水を汲みましたが、炊事用だけで畑にまくことはありませんでした。畑は富士山

の火山灰地でしたが、雨水だけが頼りでした。水路のための土地を提供すれば無料で水を流すという話があり、土地が良くなればと、参加しました。水路が出来、水を見ることが出来た時は最高の感激でした。大麦や小麦が収穫できるようになり、その麦を精米所まで運びました。新戸・新磯は坂があつて大変なので、町田の精米所へ荷車を引っ張って行きました。でも一ヶ所千寿閣の坂が大変だったことが思い出されます。畑かんの水は夏の間は雨が降っても流れましたが、冬場は流れなかったと記憶しています。

ようやく用水の暮らしに慣れたある日、水が流れなくなりました。役所の都合で止まったということでした。

やがてこのあたりも宅地化が進んできましたが、水路の跡は県の所有地ということで、宅地として売るときはそこを除いて売ることになり、不便なこともありました。

西山 一郎さん （新戸在住）

私の所は川の水に恵まれておりましたので米作りに力を入れました。河原の畑には陸稲を作り、上段にはさつま芋や麦を作りましたが、やはり米作りが一番の魅力でしたね。主食の増産で県知事表彰を受けたこともありました。

この辺りでも水不足の時には陸稲の出来が悪かったので大山の阿夫利神社まで雨乞いの水を貰いに行きました。終戦後の昭和20年代土用がすぎた頃、部落役員数人がそれぞれ大きな旗を担ぎ一升ビンを持って大山まで歩いて行かれました。私は当時20歳前でしたので父親を含め、その一行を度々見送りました。

三角形の旗には和紙が使われ、字が書いてありました。多分雨が降りますようにとの願いをこめたことばが書かれていたのではないかと思います。役員が持ち帰った水で雨乞いを行います。新戸部落の人が集まり村挙げての大行列です。行列の中には旗を担ぐ人、一升ビンを持つ人の姿が目立ちました。一行は相模川へと向かいます。神聖な行事なので、神主さんが祝詞をあげ、雨が降りますようにと祈願をし、持ち寄った水を参加者全員で相模川に流します。これが「雨乞い」の行事です。

雨乞いを行うと必ず小さい夕立が1～2回あり、3回目には本格的な雨になるのです。雨乞いの効果満点というべきでしょう。雨が降れば良いお盆が迎えられとって村人達は喜んだそうです。

ところが20年代後半座間キャンプ内に高さ300尺（約90メートル）の鉄塔ができました。たまに夕立がきたかと思うと相模川上を北へと方向を変えてしまうのです。電波の関係でしょうかとって嘆いた次第です。

畑地かんがい用水事業には他地区との付き合いもありましたので協力しました。神奈川県相模原土地宝典（昭和37年刊）で見ると市内の広い地域に幹線から網の目のように支線が引かれ、実に壮大な計画だったことがわかります。磯部の方では幹線が出来上がると支線はそれぞれ手掘りで引いていました。新戸の方では計画だけで幹線すら手付かずで終わりました。出来た地区でも水が下にしみこんでしまい1時間待っても流れてこないという話を聞きました。ちなみに磯部と新戸の境は新磯野5丁目の古川電気さんの北側の道路です。当時は防風林が植えてありました。どこの土地でもあることですが、畑地かんがい用水にも盗み水の噂が立ったりしました。

時代が変わり畑地かんがい用水事業も終わりましたが、私は現在酪農を主に1.2ヘクタールの土地で農業をしています。

中嶋 ミサさん （麻溝台在住）

昭和20年に当麻から嫁いで来ました。主人は畑地かんがい事業の理事を昭和24年から38年の事業完成までしていました。当時、畑かんの工事代は出していないけれど、土地は提供しました。土地代として雀の涙ほどのお金を貰いました。工事は完成したもののここらあたりは水は流れませんでした。出来ることなら自分のものにしたいと思って交渉しましたが、払い下げはしないということでした。溝は今もそのまま残っています。ぼうぶらが湧いたり、ゴミが溜まったりするので、いつも清掃しています。

山口 実さん （下溝在住）

畑かんが出来るまでは、干ばつの時は陸稲の葉が枯れてしまい、収穫があがりませんでした。畑かんが出来て、水が来るようになってからは、昼夜を問わず合同で堰を開いて、次から次へと畔へ水を流しました。一晩中ポンプアップした時もありました。家族総出で働きました。陸稲は見る見る元気になっていきました。38年頃から水が来なくなったので、作物の種類を替えました。

飯山 政行さん （新戸在住）

新戸のほうの者は、畑かんはあまり熱心ではありませんでした。理由は、水が自分の畑へ来なかったからです。水の道は自分で溝をつけたのです。300メートルも400メートルもね。水は少し流れて土にしみこんでしまって、毎晩、毎晩うまくなかった。一晩中待っても水が来なかった。麻溝の方の畑は支線が高みへ引いてあるからよく水が入ったらしい。が新戸のほうのは水路より畑の方が高かったのでもううまく流れなかった。

4 『畑かんがい用水の今』を読んで

長田かな子先生 （元相模原市史料調査専門員）

前略ごめん下さいませ

過日は「畑かんがい用水の今―相模野農民の夢のあとさき」御恵贈下さいましてありがとうございました。よい記録をまとめられたことと、感服しております。御苦労様でした。心から拍手を送ります。

私は3～40年前、市制施行10周年記念として刊行が始まった『相模原市史』のお手伝いをしていましたが、昭和20年で記述を終えているので、畑かんのことは少々知りながらも、何十年か後に『市史』のつづきができる際には畑かんもとりに上げられるだろうと思いました。でも少々でもふれておきたくて、昭和47年刊の第7巻別

刊の「戦後の統計」の中に1ページだけですが「S23～38相模原畑地かんがい事業の概況」として各年度の事業費の表とほんの概略と略図を入れました。略図もトレース用紙に苦心してかいたことなど思い出します。8つの項目に分けた中で、畑かんは「農業」に入れるべきか「都市建設」に入れるべきか迷いましたが、第7巻編集の頃は、たしか組合も解散をされていて「畑かんは無用の長物」といわれ、都市化の犠牲のようで何だか悲しく思われて「都市建設」の項目に入れたことを思い出します。そんな思い出がありますので、このまとめ誌にはひとしおの感懷を覚えます。5年がかりで、よくもまあ、畑かんの最後を見届けて下さったことと、感激しています。

また、調査の結果を記録としてまとめることは大変なことですが、よく一冊の本として刊行されましたことに敬意を表します。学術報告書と違って、実際に足で歩き、目で見、話を聞いての記録なので、説得力、迫力があり、ほんとうに暖かい血の通う、親近感を持って読みました。畑かんに対する愛情が行間に感じられ、私好みのぬくもりの報告書になりました。

市制50周年記念刊行の新しい市史には必ず畑かんがとり上げられるでしょうが、大変良い資料になると思います。大貫室長様や涌田様（市史編さん審議会委員）から市史編さん室にも通じていることと思いますが。

久保田前会長様が急逝なさったのは残念でしたね。前日までこのまとめ誌についての打合わせ会に出ていらしたとか、いかにも久保田様らしいキッパリしたご最後でしたが、やはり悲しくてなりません。（後略）

金子豊貴男先生 （相模原市議会議員）

前略

先日は、貴会より「畑地かんがい用水の今」お送りいただきありがとうございました。

大変興味深く拝見いたしました。貴重な記録だと思います。また、久保田さんのこともなつかしく、思い出になりました。

今、相模原市史の続編が編集されていますが、皆さんの活動もその中に入ればと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

相模経済新聞

灌漑研究を冊子に 5年かけ用水路探訪

相模原市の相武台歴史同好会はこのほど、相模原の農業振興の礎となった灌漑（かんがい）に関する5年間の調査、研究をまとめた冊子「畑地かんがい用水の今～相模野農民の夢のあとさき」を刊行した。

同会は1980年の創立以来、地域の文化財調査などの活動を行っており、97年度からは市職員の柳川雅史氏の助言もあって久保田会長（故人）を中心に相模原における畑地かんがいの歴史と用水路の現況調査に着手した。

「八里橋なし九里の土手」と言われた相模野台地の畑地かんがいは計画と挫折を繰り返し1948年、約2700ヘクタールを対象に食糧増産を目的とする国家事業として具体化、その後県の手で相模ダムを水源とする用水路の敷設が進められ63年度に完成、終了した。

同会は、相模湖町の沼本ダムから同市相模台、新磯地区に至るまで今に残る水路跡を訪ねて現況を調査。農業者の「水路ができ、水を見ることができたときは最高の感激でした」といった貴重な回想談などを収録し、相模原ゴルフクラブ（大野台）に残る東西分水工を再発見するなどの成果も収めた。

また、12回に及ぶ実地調査、8人からの聞き取りなどに基づく成果を毎年由市文化財展で発表し、地元の相武台中学校での講話を通じて若い世代への伝承にも努めた。

刊行された冊子は、こうした活動の足跡と会員の感想、地図と写真などを収めており、中心的な役割を果たしながら冊子の編集中に急逝した久保田さんの遺稿に当たる「はじめに」と題する文章を巻頭に掲げている。

大貫英明市教委文化財保護室長が「市民が身近な文化遺産から歴史を問う意義を

明らかにした歴史活動として、高く評価されるべきもの」と祝辞を寄せ、柳川氏は自ら調査に参加した思い出を語り、久保田さんの人と業を追憶するあいさつ文を寄せた。(2004年2月10日号)

2004年(平成16年)2月10日(火曜日)



相模経済新聞社

〒229-0037
相模原市千代田1-6-8
TEL. 042-757-3534
FAX. 042-758-1514
郵便 00210-5-28233

相模台歴史会

灌漑研究を冊子に 5年かけ用水路探訪

相模原市の相模台歴史
同好会(市川三郎会長、
十一人)はこのほど、相
模原市の農業振興の礎と
なった灌漑(かんがい)
に関する五年間の調査
研究をまとめた冊子「畑
地かんがい用水の今」相
模野農民の夢のあとさ
き(B5判、五十五頁)
を刊行した。

同会は一八八〇年の創
立以来、地域の文化財調
査などの活動を行って
おり、九七年度からは市職
員の柳川雅史氏の助言も

あつて久保田浩子会長
(故人)を中心に相模原
における畑地かんがいの
歴史と用水路の現況調査
に着手した。

「八里橋なし九里の土
手」と言われた相模野台
地の畑地かんがいは計画
と挫折を繰り返し一九四
八年、約二千七百坪を対
象に食糧増産を目的とす
る国家事業として具体
化。その後県の手で相模
ダムを水源とする用水路
の敷設が進められ六三年
度に完成、終了した。

同会は、相模湖町の沼
本ダムから同市相模台、
新磯地区に至るまで今に
残る水路跡を訪ねて現況
を調査、農業者の「水路
ができ、水を見ることが
できた」といった貴重な
回想談などを収集し、相
模原ゴルフクラブ(大野
台)に残る東西分水工を
再発見するなどの成果も
収めた。

また、十二回に及ぶ実
地調査、八人からの聞き
取りなどに基づく成果を
毎年の市文化財展で発表
し、地元の相模台中学校
での講話を通じて若い世
代への伝承にも努めた。

刊行された冊子は、こ
うした活動の足跡と会員
の感想、地図と写真など
を収めており、中心的な
役割を果たしながら冊子
の編集中に急逝した久保
田さんの遺稿にあたる
「はじめに」と題する文
章を巻頭に掲げている。

大西英明市教委文化財
保護室長が「市民が身近
な文化遺産から歴史を問

う意義を明らかにした歴
史活動として、高く評価
されるべきもの」と祝辞
を寄せ、柳川氏は自ら調
査に参加した思い出を語
り、久保田さんの人と業
を追憶するあいさつ文を
寄せた。

市街化の波に埋もれよ
うとしているかんがい用
水路の痕跡を求め、その
歴史的役割と現状をまと
めたこの冊子は、市民自
身による地域史研究の画
期的な成果の名に恥じな
い労作と言える。



平成10年

平成13年までは「畑地かんがい用水の今」を引き続き調査していたので、それ以外の活動を記します。

歴史散歩 ・川越

- ・「発掘された日本列島98」（国立博物館）
- ・相模原市内巡り

『相模原の自然と文化』 「畑地かんがい用水の今Ⅱ」 久保田浩子

平成11年

歴史散歩 ・鎌倉、源頼朝公展他

- ・新戸の大風見学
- ・県立相武台高校青陵祭「時代展」見学

『相模原の自然と文化』 「歴史同好会へ入会して」 涌田 久子

平成12年

市立緑台小学校3年生に授業「ふるさとの歴史」 久保田浩子

市立相武台中学校で講義「地域の昔と未来」 久保田浩子

文化財研究協議会主催「相模川流域文化財探訪 新戸周辺」説明・案内

タウン誌アゴラ主催座談会に参加

歴史散歩 ・ 蔵前界限

研修旅行 日光輪王寺・東照宮他

『相模原の自然と文化』 「畑地かんがい用水の跡『東西分水』」 木挽 昌平

平成13年

相武台公民館々報「そうぶだい」に「語り継ぎたいわが町の歴史」の連載を始める。平成13年7月～15年3月 11回

公民館高齢者学級開講式で講演 久保田浩子

緑台小で「郷土史」の講演 久保田浩子

研修旅行 修善寺

『相模原の自然と文化』 「畑地かんがい用水探索余話」 市川 三郎

平成14年

前年度に引き続き、公民館報に「語り継ぎたいわが町の歴史」を連載、これを14年度のテーマとして、文化財展で発表しました（次ページ以下）。

歴史散歩 ・ 佐倉市国立歴史民俗博物館、他
・ 有鹿神社奥宮「水もらい神事」見学

学習会 「相武台地区都市雨水問題の概要」 芦沢宏先生

もえぎ台小講演 「わたしたちの町」 久保田会長

※相武台中ふれあい事業に参加

『相模原の自然と文化』

「干支と庚申塔」

涌田久子



語り継ぎたいわが町の歴史

(相武台公民館々報より)

相武台地区は戦後急速に発展したため歴史が浅いと言われていますが、ひとつの町が誕生するには、生い立ちがあります。広報部は相武台をふるさととして、認識していただきたく地域の歴史のルーツをさぐり、今も当時のおもかげが残っている物を紹介します。

このシリーズは相武台歴史同好会の皆さんにご協力いただき、記事の選択、執筆等を担当していただきます。

1 畑地かんがい用水路

私達が散歩道として利用している「仲良し小道」は、四季折々の花が、行き交う人々の目を楽しませてくれています。この道はかつては「畑地かんがい用水路（畑かん）」と呼ばれる農業用水路でした。

相模野台地は水が乏しく、この地に水を引くことは農民たちの長い間の夢でした。終戦後の食糧危機の時代に、国庫補助のもとに県営事業として大規模な用水路建設の工事が始まり、15年の歳月と10億円の工費を費やして、相模川の水を流すことに成功しました。待望の水が流れ、人々は喜びの声を上げました。



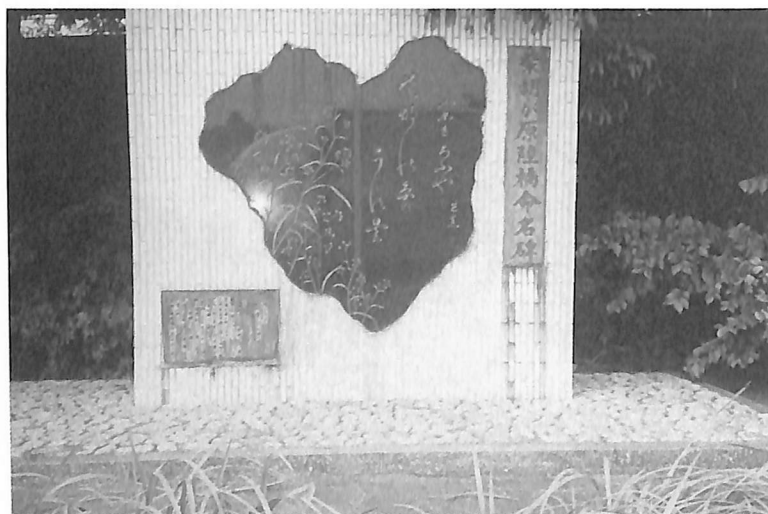
畑地かんがい用水路跡

しかし、時代は移り、相模原の土地も工業用地・住宅用地へと変化して行きました。市では水路だったところに蓋をして仲良し小道として市民の憩いの場所としたのです。今でも用水路の跡や、支線に使われたヒューム管が残っているのを見ることが出来ます。

2 ^{さいこぐさ} 柴胡草

相模原市民の歌に「柴胡に原の昔より」と歌われているように、昔相模野一帯に柴胡草が群生していました。柴胡はセリ科（多年草）で黄色い素朴な花です。その根が薬草で、解熱や鎮痛などに効き貴重なものでした。農民たちは掘り採っては現金に替え、税や生活費に当てていました。現在、天然の柴胡を探し出すことは不可能に近いのですが、市内で柴胡を大事に育てておられるお宅を訪ね、本物の柴胡を見ることが出来ました。

柴胡が原陸橋命名碑には柴胡を詠んだ芭蕉の句「かげろふや 柴胡の原のうす曇」が刻まれ、左下には柴胡の解説や陸橋命名の由来などが書かれ、名残をとどめています。碑の場所は、小田急相模大野駅より小山経由JR相模原行きの路線バスで県立相模原公園バス停近くです。



芭蕉の句碑

3 桑畑

相模野台地は作物の実りは悪かったようですが、桑の育ちは良く、江戸時代から養蚕が盛んでした。養蚕は「女の稼ぎ」とされ「そばづくり、まんじゅうづくり、糸とりの三つが出来ない娘は嫁にいけない」と言われていました。勝坂の勝源寺には青面金剛像が安置され、養蚕の神様として信仰されていました。また「おしらさま」という生糸生産にまつわる伝説も残っています。

相武台地域では、終戦後開墾した畑（旧陸士練兵場跡地）に、近郊の農家の人々が桑を植え、養蚕を営みました。しかし、厳しい生糸の需給事情や、就業者の高年齢化、地域の都市化等、時代の変遷により、養蚕をする農家はほとんど見られなくなりました。当時使われていた道具や資料一式は今でも上磯部の郷土資料館に保存・展示されています。



桑畑

4 縄文遺跡

相武台の近くには勝坂遺跡、新戸遺跡という二つの縄文中期を代表する遺跡があります。勝坂遺跡は大正15年に考古学者大山柏博士が初めて調査し、飾りのすぐれた土器を発見し、後にこれが「勝坂式土器」と名づけられました。新戸遺跡は昭和58年に新磯高校が建てられた際に発掘されました。二つの遺跡は数百メートルしか

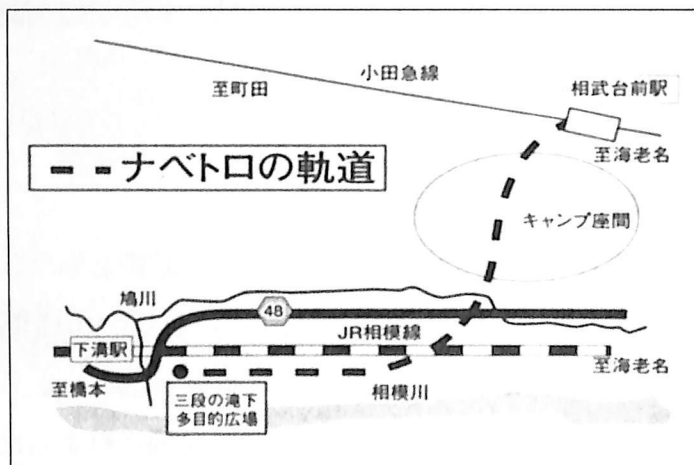
離れていないので、一続きの居住地だったと思われます。両遺跡とも出土した土器は勝坂式の他に加曽利E式と呼ばれるものも多く、その一つが新磯高校に保管されています。勝坂遺跡はA B C D E Fの6地区にわたる広大なもので、国の史跡指定を受け、そのうちD地区は勝坂遺跡公園として整備が進められています。



勝坂式土器

5 ナベトロ

砂利は鉄道・道路・建築の資材として近代工業のためになくてはならないもので、都市近郊の河川から盛んに採取されました。相模川の砂利採取には、いろいろな業者が参入しましたが、小田急電鉄でも昭和8年に砂利採取を始めました。採取場は30万坪の広さで、採取船3隻、ガソリン機関車6台、トロッコ20台が設置されました。砂利を積んだ軽便軌道が座間駅（現相武台前駅）まで4キロの道を勢い良く走りました。トロッコの底が鍋のように丸くなっていたので、付近の住民からナベトロの愛称で親しまれていました。その後の変遷により軌道の跡はほとんど無くなりましたが、わずかに面影が残っています。磯部の郷土民族資料館にはナベトロが走っている貴重な写真が掲示されています。



6 相武台地名の由来

「相武台」の呼び名は比較的新しいものです。この付近は明治22年、新戸村と磯部村が合併して新磯村となっていました。昭和12年に陸軍士官学校が市ヶ谷から移転して、その卒業式に出席された昭和天皇が、学校の所在地を「相武台」と命名されたことに由来します。これは古事記にも載っている日本^{やまと}武尊^{たけのみこと}の東征の故事に因んだものです。当初は相武台という名はおそれ多いということで、一般には使用されませんでした。その後周辺の地域も相武台と呼ぶようになり、駅名も相武台前や相武台下となりました。

キャンプ座間の正面入口に「相武臺^{そうぶだい}」と彫られた石碑がありますが、終戦により連合国軍によって破壊されるのを恐れ、地中に埋められていたものを、米軍の司令官アイケルバーガー中將の命令で現状に復されました。



座間キャンプ内 相武台の碑

7 勝坂の有鹿さまと湧水

磯部の国指定史跡「勝坂遺跡」のそばに雑木林の中に入っていく小道があります。その道を少し下った所に^{あるか}有鹿神社の小さな祠^{ほくら}があり、その前に有鹿の湧水と呼ばれる流れがあります。有鹿神社の本宮は海老名にあり、磯部の祠は奥の宮です。中世末期に、夢のお告げによって瑞鳥の後を追っていった所、鳥の止まった場所に湧水があったという言い伝えがあります。有鹿谷は地名の一つで旧磯部村の^{こあざめい}小字名でし

た。

有鹿の湧水は下流の農民にとって大事なものでした。有鹿神社では4月8日に海老名の本宮からご神体を納めた神輿^{みこし}をここにうつした祝詞^{ありと}をあげ、6月14日に帰社させるという神事が江戸末期まで続きました。「有鹿さまの水もらい」といわれ、稲の種蒔きから田植えまでの間、神様にとどまっていたく水源地確保の行事でした。現在でも形を変えて、この神事が続いています。

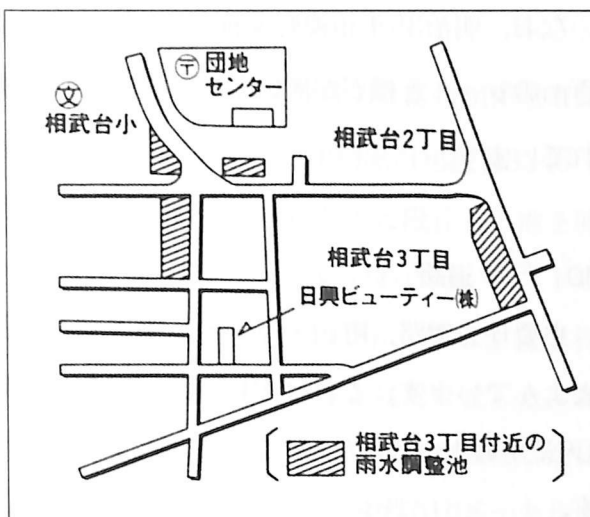


有鹿神社

8 雨水調整池

昭和33年に相模原市が首都圏整備法の指定を受け都市化が進み、相武台地区も急激に人家が増加しました。それにともない、自然条件も変わってきました。元々、相武台3丁目付近は所々に低地・くぼ地が点在し、一旦雨が降ると、そこに雨水が集中して見る見るうちに池や沼ができるという土地で、目久尻川の原点といわれていました。県営住宅や相武台団地ができると更に住宅が増え、今まで保水の役を果たしていた野原がコンクリートに変わり、押し寄せる水の量も速さも想像以上で水害の被害も多くなってきました。昭和50年代の度々の台風の時には軒先まで水が押し寄せ、恐怖のあまり手も施せなかったと言います。住民たちは土のうを積んだり、手回しのサイレンで急を知らせたり、消防ポンプで排水するなど懸命の努力をしま

した。日興ビューティー（株）の前には相模川から持ってきたボートや、手回しのサイレンが洪水のために用意されて相当期間置かれていました。地域の人たちは、抜本的な解決を求め行政に陳情を繰り返しました。その結果、雨水調整池の設置、排水工事、そして都市下水道の整備と、安心して住める相武台が実現したのです。



9 相模野基線 —日本地図の基—

明治11年、陸軍参謀本部は日本地図製作に三角測量を採用しました。これには基になる線（基線）が必要で、そこは広く見通しが利く土地でなければなりません。この条件をみたしていたのが当時の相模野でした。

明治15年、測量の基点は北端点が相模原市麻溝台4-2099、南端点が座間市ひばりが丘1-5543（現鳥羽医院）に、中間点が座間市相模が丘2-17先に置かれて、全長5.2kmの基線が決定されました。畑や雑木林を一直線に幅4mに切り開き、それを8等分してくいを打ち、何回も繰り返して測定したそうです。それが軸となり三角測量の方法で日本全体の正確な地図が作られました。（図参照）。現在、基線は残っていませんが、南・北・中間点にはそれぞれ標石や説明板が設置されています。



なお、明治35年相模野基線の再測量のために設置した「百米比較室（測量のため百mのレールと標石が置いてあった建物）」跡の説明板が相模台2-17-9に立てられています。

10 ^{ぎょうこう} 行幸 道路

主要地方道路、町田・厚木線（県道51号線）のことを私たちは日常、「行幸道路」とよんでいます。これは昭和天皇が座間の陸軍士官学校（現キャンプ座間）に行幸（天皇がお出かけになること）された時に作られた道路のことをさして言ったものです。

昭和12年に陸軍士官学校が市ヶ谷から移転してきて、その卒業式に昭和天皇が出席されました。その当時町田から座間までの道路は狭く、とても天皇をお迎えできるような状態ではありません。そこで急ぎよ改修工事を行うことにしました。近村の人々がたくさん動員され、夜を日に継ぐ工事が行われました。

天皇様がお見えになるというので、警察からは送迎上の注意事項が出されました。送迎する小学生はお辞儀の仕方から目線の動きまで、何日も前から練習を重ねました。

道路はその後再び工事をして現在のような直線状の道路になりました。



行幸道路奉仕記念碑

11 新戸トンネル

「市道新戸相武台線」は、始点はＪＲ相武台下駅近くの新戸踏切り傍（相模原市新戸2010－1）から新戸集落を過ぎ、小田急線相武台前駅前（相模原市相武台3246－1）を終点とします。江戸時代の終わりごろから新戸の人々は営々と段丘上の地を開拓してきました。昔は新戸と丘陵をつなぐ道が2本あり、「上のおおさか」と「下のおおさか」といって町田方面へ行く大切な道でした。昭和12年、陸軍士官学校（現・米軍キャンプ）の移転にともない、この道が中断されることになりました。新戸の人々は駅を利用する者や畑を耕作する農家の生活道路であると、軍に交渉した結果、下のおおさかの道を掘り下げて通行することになりました。中程510メートルほどの上部分をおおったので、トンネルのような道になりました。このトンネルが通称新戸トンネルと呼ばれています。構造上は山をくり抜いたトンネルではありません。しかし、両側の壁面をつなぎ目から湧き出る清水や天井からポタポタ落ちる水の為に路面がぬかるみ、電灯が濡れて切れて暗い中を、それでも人々は仕事に行く為にこの道を通りました。側溝を造り、砂利を敷き舗装するなど、補修工事を度々行って60数年経た現在まで、管理に多額な費用を投じてきました。上のおおさかは、小川に沿った道で、登ると畑の先に大六天・芝八反・避病舎がありましたが、今は米軍キャンプとなり、道も何も残っていません。唯一、大六天様が新戸公園に移されています。



新戸トンネル

3月3日 久保田会長 急逝の知らせを聞き、私達は愕然としました。前日の3月2日には定例会で会の中心になって会をリードしていたのです。考えもしなかった突然の出来事でした。

急きょ市川三郎副会長を会長代行とし、皆で力をあわせテーマを設定し研究を進めるとともに、久保田会長が念願としていた「畑地かんがい用水の今」のまとめ誌の発行に力を注ぎました。

研究テーマ 相模原の手習い

学習会 相模原の寺子屋について 講師 安藤和次郎氏

歴史散歩 ・庚申塔めぐり
・飛鳥山方面
・田名民家資料館

研修旅行 足利学校他

『畑地かんがい用水の今

ー相模野農民の夢のあとさきー』 発行

『相模原の自然と文化』『市民の“わがまち”意識・考

ー『市政に関する世論調査』よりー』 渥美 寿夫

相模原の手習い



相模台歴史同好会

相模原にはたくさんの古文書が残されています。

時折 博物館で公開される古い手紙・日記・覚書等によって
私たちは当時の人々の生活を垣間見たり、想像したりする事
ができます。

当時の人 は どのようにして文字を覚え、また 計算を習っ
たのでしょうか。それを知りたいと思いました。

相模原の手習い

徳川中期より庶民にも文字や計算を使う必要が出てきて、やがて子弟に一定の教育を行う場所ができるようになりました。江戸に発生した寺子屋は地方農村にまで広がりを見せるようになりましたが、この背景には商品経済の農村への浸透があり、子弟に対する「読み、書き、算盤」の基礎的な能力養成の必要があったと思われます。

相模原地域でも、近世末期以降、養蚕、機（はた）業などの著しい発達により、広い範囲の商業経営圏に参加するようになり、自活の必要から、最小限度の文字、算用が要求されるようになりました。このことは農家の子弟も、読み書き算盤の能力を養うため、寺子屋、塾への積極的な就学を促すようになったのです。

教 場

寺子屋という名が示すように授業は多く寺院で行われました（地図参照）。これらの寺子屋は多くは明治になって「学舎」となり、後の小学校の母体となりました。

このほかに、篤志の個人で営まれた「塾」がありました。

上鶴間村 古木吉弥、渋谷久左衛門、小方深右衛門、渋谷広行、渋谷伝兵衛、五十嵐順庵、

磯部村 栗山半左衛門、

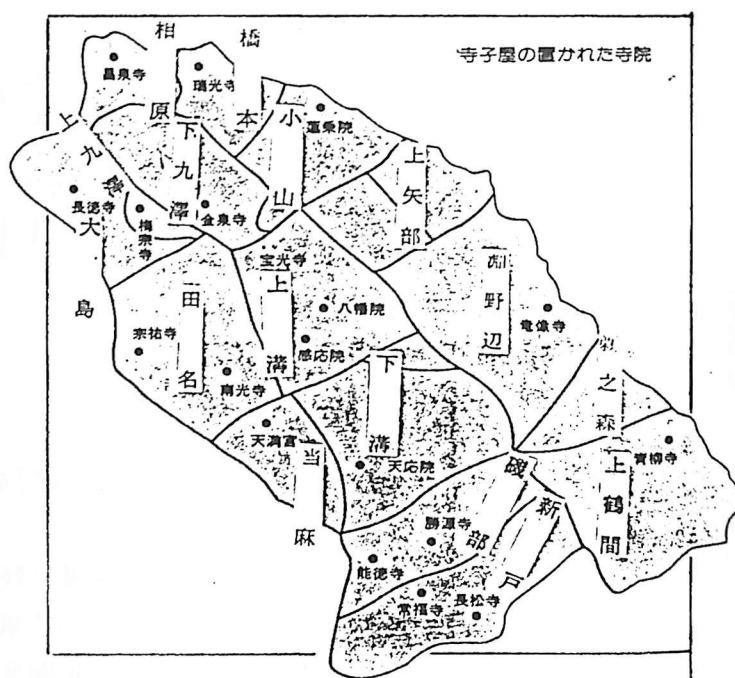
下溝村 小泉（朝倉）由左衛門、

当麻村 天満宮別当 杉崎梅明、

上溝村 井上篤斎、小山栄左衛門

鈴木縫之助、

田名村 篠崎台右衛門（柳静）、同村葛輪 内山玄貞、下九沢村 佐藤善右衛門、小泉茂兵衛等により、読、書、算学あるいは武術の指導が行われました。



就学年齢・学習時間

寺子屋の就学年齢は、6～7歳から14歳くらいまで、就学年限は一律の規定はなく、平均すると3年以下が多かったが、なかには8～9年に及ぶ長期就学者もいました。授業の時間帯も一定せず、生徒の家庭の事情等で昼間だけでなく夜間もあるといったぐあいでした。

生徒は中流以上の庶民の子弟で殆どが男子でした。

教科書・指導法

教科書といっても生徒一人ひとりが個人として持っていた物ではありませんが、「実語教」「庭訓往来」「天素往来」など往来物（初等教育の教科書・手紙文の範例集）や「千字文」等が使われました。「読書百遍、意自ずから通ず」という学習形式でしたが、「四書五経」などむずかしい漢文の本などは幼児には難解でした。習字、算盤のほかに行儀作法も指導されました。



教育碑

市内の所々に「〇〇先生の碑」という石碑を見かけます。これは、先生の徳を慕って教え子達が建てた碑で、頌徳碑とも筆子塚とも呼ばれています。明治以前に教鞭をとられた方の教育碑は次のとおりです。

小方	深右衛門	相模大野駅付近	(小方家内)
深谷	広行	〃	
深谷	伝兵衛	〃	(青柳寺境内)
古木	吉弥	〃	
日翁上人		〃	
安藤	和治作	淵野辺	
柳川	宇之助	橋本駅付近	
鈴木	縫之助	上溝駅付近	(上溝小学校校庭)
井上	篤斎	〃	
鈴木	立斎	〃	(鈴木祐男先生宅)
篠崎	台右衛門	田名 上田名バス停付近	
吉川	正衛	二本松バス停付近	(正泉寺)
小泉	由右衛門	当麻駅付近	
栗山	半左衛門	磯部	

仙波先生諱ハ詮賢考諱ハ謙造先生ハ其ノ嫡嗣ナ
 リ嘉永六年十二月八日本村ニ生ル天資温厚幼ニ
 シテ家學ヲ受ケ博ク群書ニ通ス明治元年父ノ業
 ラ継キ書ヲ教黨子第ニ授ケ後小學校ノ設立ニ及
 ヒ訓導ニ任ス大正七年三月十八日老ヲ以テ職ヲ
 辞ス郷民化ヲ被ル歳ハ則テ五十有一世ハ即チ三
 代教ヘラ倦マサルモノト謂ツヘキナリ先生兼テ
 神職ニ補ス敬神ノ徳ヲ養ヒ崇祖ノ念ヲ作ル一村
 風ニ向ヒ又意ヲ公益ニ注キ力ヲ農桑ニ致ス是ニ
 於テカ殖産大ニ興ル益シ本村今日ノ盛ラ致ス所
 以テ者固ヨリ先生ノ功多キニ居ル仍テ先生ノ功
 績ヲ録シ永ク後昆ヲシテ先生ノ偉徳ヲ仰カシメ
 ント欲ス

大正七年十月十七日 建設委員長望月珪治

仙波 詮賢 碑文 (旧円常寺)



深谷 伝兵衛 碑 (青柳寺)

この年は相模原市制50周年ということで、従来の展覧会方式を変え、史跡探訪をもって文化財展に変えるということになりました。文化財研究協議会所属の各団体でそれぞれ史跡探訪のマップを作り、日にちを決めて市民に呼びかけ、そのコースを歩いてみる。その案内役も各団体で行うという企画でした。

私達は この探訪・マップのテーマを「畑地かんがい用水路跡をたどるー相模野農民の夢のあと」とし、以前まとめた「畑地かんがい用水の今」をもう一度検討してマップにまとめました。

11月23日 天候にも恵まれ、成功裏に史跡探訪案内の役を終えることができました。

また、文化財研究協議会『相模原の自然と文化』第25号には、「思い出で綴る相武台の変遷」というテーマで全員が各自の思い出とともに地域の変遷を文章にして好評でした。

「寺子屋展」見学 座間ハーモニーホール

研修旅行 渡辺崋山のふるさとを訪ねる 愛知県田原市

思い出で綴る相武台の変遷

(『相模原の自然と文化』第25号より)

遠い丹沢の山なみは昔のままですが、周りの風景はすっかり変わりました。私たちは市制50年という節目の機会に、相武台地区の変容を各自の思い出とともに書いてみました。

母の苦勞

涌田 久子

昭和16年に戦争が始まると間もなく横須賀の従兄達8人が新戸へ疎開してきましてのであつという間に16人の大家族になりました。母は農作業の傍ら、衣食住の世話を一手にこなしまるで働き蜂のようでした。当時は家電がなくすべて手作業でした。井戸水を汲んで風呂を沸かし、たらいの中で洗濯をし、食事の準備はかまどに薪をくべて火加減を調節するといった具合で非能率的でした。縫い物などは夜中にやっていました。その頃小学生だった私には母の手助けなど出来ませんでした。舅、姑の下で小さくなって働いていた母が、従兄達に「おばさんボタン取れちゃった」「おばさん今日のおやつは何」などと声をかけられることによって、まるで人が変わったように大きく見えました。

駐留軍専用車

和田美代子

終戦の翌年に女学校に入学し初めての電車通学をはじめました。今の相鉄線で星川から平沼橋まで行っておりました。確か蒸気機関車が客車を引っばっていました。客車は椅子が板張りでその上に立ち、乗り降りは窓からしたものです。男の人は蒸気機関車にしがみついていた。そのような状態の頃にきれいな電車が下り線を新宿行きの表示をつけ駐留軍専用で走っていました。新宿は東京なのに下りを走っている。不思議でした。そんな折、父の仕事で相武台へ引越しその「なぞ」が解け

ました。海老名でポイント切り替えしていたのです。いつ頃その専用車が廃止になったのか定かではありませんが特別料金で乗ることが出来るようになり、体験してみました。高校生の身でチョッピリ後ろめたい思いもありましたが海老名で30分も待たなくて帰れる快適さを味わいました。

畑の中の一軒家

高橋 玉枝

昭和38年、畑の中にホツンと一軒、家が建ちました。これが我が家でした。周辺は畑だけ、四方を見渡すことが出来ました。西に座間キャンプの森とゴルフ場があり、ゴルフ場ではプレーをしている人の姿が見えました。南には平屋建ての県営住宅、道はまだ農道で時々人が通るだけ、日中でも一人で居る時には錠を掛けての生活、夜は静かで前方に県営住宅のあかりがボーっと見えるだけでした。この静けさも2年ほどで周辺に家が建ちはじめ、5年も過ぎた頃には畑が住宅にと変わり、座間キャンプも建物の陰で何も見えなくなっていました。県営住宅も5階建てのビルに変わりました。

あれからもう40年も過ぎてしまいましたが、こんなに人も車も多くなるとは思いもしませんでした。今は朝早くから夜遅くまで、車の音と人の声で少々うるさく感じている日々です。

相武台に引越したころ

西貝 茂

相武台前駅に下り立ったのは妻の実家を訪ねたときで、下り電車が発車して線路を渡り、改札口から出て見渡しても駅前の賑やかさはありません。

昭和43年に相武台2丁目に引越し、転入の手続きは新戸の新磯出張所へ行きました。勤めが東京で朝早く家を出て夜遅く帰り、駅前には商店があったようですがどのような店があったのか記憶にありません。未だグリーンパークもなく、遠くに防風林が見える広い原っぱで正月には凧揚げを楽しみました。

相武台の道も今では舗装されていますが、当時は舗装もなく砂利道で晴れば砂ぼこり、雨が降れば泥んこ道で駅まで行くのに難儀したものです。町内一斉掃除の日には側溝の清掃、砂利道の整備などをし、掃除に出ないと「出不足」と称して何がしかの金品を班のみなさんに出さなければいけないと言われたくらいに大変な共同作業でした。

思い出のアルバム

木挽 昌平

つい6～7年前だったと思いますが相武台小学校が創立30年記念誌を発行したので、相武台団地の最初の入居者である我々に、これに掲載する写真があったら提供してほしいとの申し出があり子供達のアルバムを提供いたしました。団地の建設現場で風揚げをしている写真や出来上がる前の村富線の建設現場で子供達を遊ばせている大変なつかしく、又歳月の流れを感じさせるものばかりでした。



相武台団地

市川 三郎

私は昭和42年の暮れに相武台団地に越してきました。当時団地内は、広い敷地内に完成して人が住んでいる所、工事中の所、基礎工事をしている所、整地をしている所とまちまちでした。団地の入口のところに完成図が大きく掲げられてあり、いずれはこんな立派な団地になるのかなと思いました。

ちょっと外れた所に「新相模原ショッピングセンター」という商店街がありましたが、パン屋さんと後二、三軒の店があるだけでした。しかし、入居者の増加とともに店の数はどんどん増え、夕方には買い物客でいっぱいの盛況でした。今はスー

パーや生協などの進出もあり、かつての賑わいはないようです。また、地域の子供の数も減りました。これらは何処でも見られる現象かと思います。

学校の思い出

永田カズヨ

昭和43年8月下旬一家5人で、この相武台団地に移ってきました。長男は相模台中学校2年、二男は相武台小学校6年、三男は同4年にそれぞれ転入しました。小学校は開校間もない事もあってか、6年生は2クラスだったと思います。校舎は、本館のみで土の運動場とその広さに只々感激しました。地元の子もいましたが東京からの転校生も多く、すぐにお友達も出来た様でした。3月には卒業式を迎えました。前日のお別れ会は何もない校庭に椅子を並べて行われ、感じたこと等を話合いました。式は急造のプレハブの建物の中で新しい紅白の幕が眩しく一人一人に証書が授与され、狭い場所だからこそ、身近に見ることが出来、とても味わいのある式でした。

長男、二男、それぞれ中学校、小学校の一期生です。それまではこの団地から、大野南中、桜台小に通っていたということです。

相武台雑感

天沼 一仁

昭和51年相武台（新磯野）へ引越してきました。

当時のこの辺りは、駅から家まで歩いてくると、野原ばかりで緑が濃く、その間に家がポツリポツリと建っていて、自然に恵まれた処で子供達を育てるのには最高の環境だと思いました。何故ならば3人の子供達は皆小児ゼンソクを煩っていたからです。それがこちらへ引越してからピタリとそれがなおったではありませんか。只々驚くばかりでした。

その後20年が過ぎてまわりを見回すと、マンションやアパート・スーパーマーケット・公園墓地・学校等があちこちにできて随分様変わりしたと思います。まして

や家の北側一帯は、市街化調整区域だとかで産業廃棄物や動物の焼却所までも出来て、北風が吹くとイヤな臭いや車の上に薄っすらと白粉がかけられたようになるのです。これでは引越してくる前に住んでいた川越街道沿いの所と変わらないのではないかと思う今日此頃です。

水害

矢野 健治

夕方、いつもの道を帰ってくると辺り一面が茶色の水に漬かっていて驚きました。急いで迂回して家に着くと玄関の外側までひたひたと水が迫ってきていました。低くなっている東側は見渡す限り濁った水の沼。5軒ほど先の息子の友達の家の前では、その父親が胸の辺りまで水に漬かって物を担ぎ出していました。その夜、その友達が我が家で心細そうに一緒に夕飯を食べたのを覚えています。後で聞くと、床上まで浸水し色々な物が浮いてしまったとのこと。長男によると、消防の人が船に乗って行き来していたのを見たとのこと。今は亡き母の話では、保育園からの帰り水が道路を川のように流れ、手をつないでいたが次男は足をすくわれそうになりやっとのことで歩いてきたとのことでした。

相武台1,2丁目の境目付近でこの水害がおきたのは昭和53年4月。長男が9歳、次男が5歳の時。27年前でした。この辺に高い地盤の家が多くなったのはこの後のことです。

相武台出張所・公民館の思い出

竹野和嘉子

昭和54年12月「私たちの住んでいる町のルーツを探ろう」と題した歴史講座が開かれる事を回覧で知りました。幸い土曜日で午後、子供を主人に預け砂利道を急ぎました。

本当に、当時は田舎でした。一寸外へ出ると耳が千切れるような寒い冬でした。座間キャンプの向こうの大山の頂きには真白く雪がかかり、ペタッ！と冷たい風が

頬を突きました。一面すすきの原（現在グリーンパーク）を抜けると角に砂利の敷かれた広場の向こうに平屋造りの出張所がありました。奥の一角の木の机一つ置いた所が公民館の職員の席でした。

東京から転居してきましたので、今自分の住んでいる土地にも先代の残した歴史がある、それを教えて下さるなんて素敵じゃない、ぜひ知りたいと思い参加しました。

講座終了後、数人で同好会を作りましたのが、現在の相武台歴史同好会の始まりです。

「市制50周年」に思うこと、二、三……

渥美 寿夫

市制50年—古くから住んで、「町」から「市」に“格上げ”された当時をジカに知る人にとっては、感慨一入でありましょう。しかし若い人や他所から移ってきた者にとって、50周年？アゝ相模原市になったのは昭和29年だったのだ、と市史の年表を繰るか、また一つ利口になった—というところでしょうか。

私が住んでいる新磯野4丁目「グリーンパーク」は、第1期建設が完成したのが昭和54年、ちょうど25周年を迎えます。そして私が移って来たのが「平成」になった年、ちょうど15年経ちました。学校からの帰り道階段の手すりをガンガン叩きながら上っていた少年が、いま社会人。彼の通った小学校もすでに校名が変わって統合校に—身近なところから“時の流れ”を感じます。

私の知る限り、相模原市は自然災害に見舞われたこともなく、平和で穏やかな年です。今後もそうあってほしいと思います。

半世紀の時代背景がさまざまな思い出で綴られ、昔を振り返るよい機会となりました。お互いに懐かしさを分かち合いながら心の通いあう「会」をめざしたいと思います。尚、夢と希望に輝く相模原市の更なる発展を会員一同願っています。

平成17年

研究テーマ 相模原の手習いⅡ

講演会 相模野の鉄道 バス・歴史物語 講師サトウマコト氏
相武台公民館共催

歴史散歩

- ・曾我の傘焼きまつり
- ・曾我 城前寺



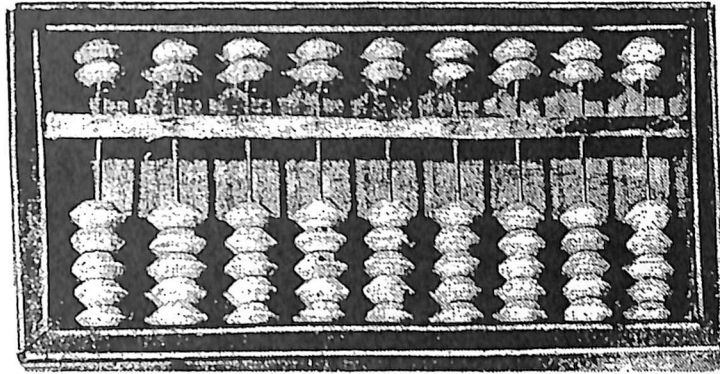
研修旅行 犬山城、明治村

『相模原の自然と文化』

「昔をふりかえって」 涌田久子



相模原の手習い II



相武台歴史同好会

相模原市には数多くの古文書が残されています。その中には、土地・租税・戸籍のような公的文書もあれば、手紙・日記・紀行文のような私的文書もあります。そして、それらのほとんどは村民たちが自ら書いたものです。当時の教育機関「寺子屋」の様子はどうかだったのでしょうか。

文化文政時代に江戸の庶民の教育機関として生まれた寺子屋は、全国に広がり、天保時代には地方農村部まで普及しました。

相模原においても、近世末期以来、養蚕・機業などの著しい発展により、広い範囲の商業経営圏に入るようになり、文字や算用の力が必要とされるようになりました。農家の子弟も読み書き・そろばんの基礎的能力を養うため、寺子屋・塾へ通うようになりました。

教 場

寺子屋という名が示すように授業は多く寺院で行われました(地図参照)。これらの寺子屋は多くは明治になって「学舎」となり、後の小学校の母体となりました。

このほかに、篤志の個人で営まれた「塾」がありました。

上鶴間村 古木吉弥、渋谷久左衛門、小方深右衛門、渋谷広行、渋谷伝兵衛、五十嵐順庵、

磯部村 栗山半左衛門、

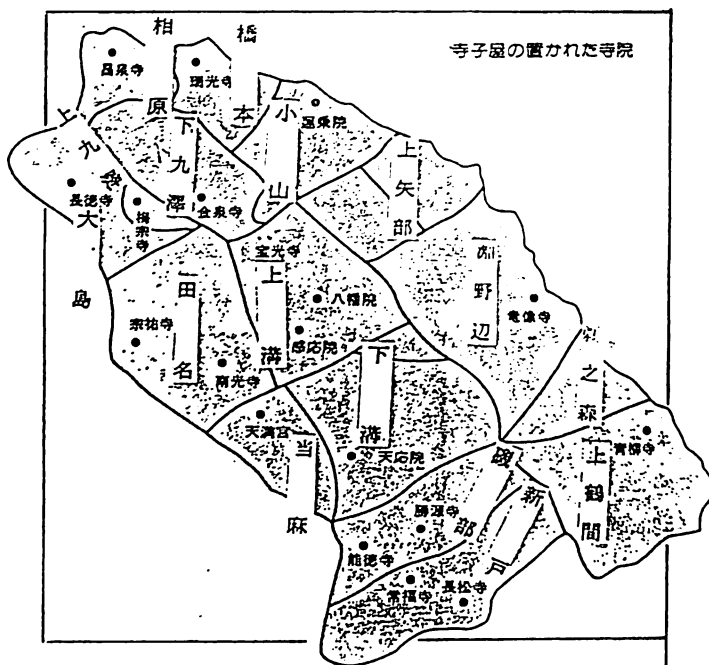
下溝村 小泉(朝倉)由左衛門、

当麻村 天満宮別当 杉崎梅明、

上溝村 井上篤斎、小山栄左衛門

鈴木縫之助、

田名村 篠崎台右衛門(柳静)、同村葛輪 内山玄貞、下九沢村 佐藤善右衛門、小泉茂兵衛等により、読、書、算学あるいは武術の指導が行われました。



教育碑

市内の所々に「〇〇先生の碑」という石碑を見かけます。これは、塾の先生の徳を慕って教え子等が建てた碑で、筆子塚とも呼ばれています。

就学年齢・学習時間

寺子屋の就学年齢は、6～7歳から14歳くらいまで、就学年限は一律の規定はなく、平均すると3年以下が多かったが、なかには8～9年に及ぶ長期就学者もいました。授業の時間帯も一定せず、生徒の家庭の事情等で昼間だけでなく夜間もあるといったぐあいでまちまちでした。

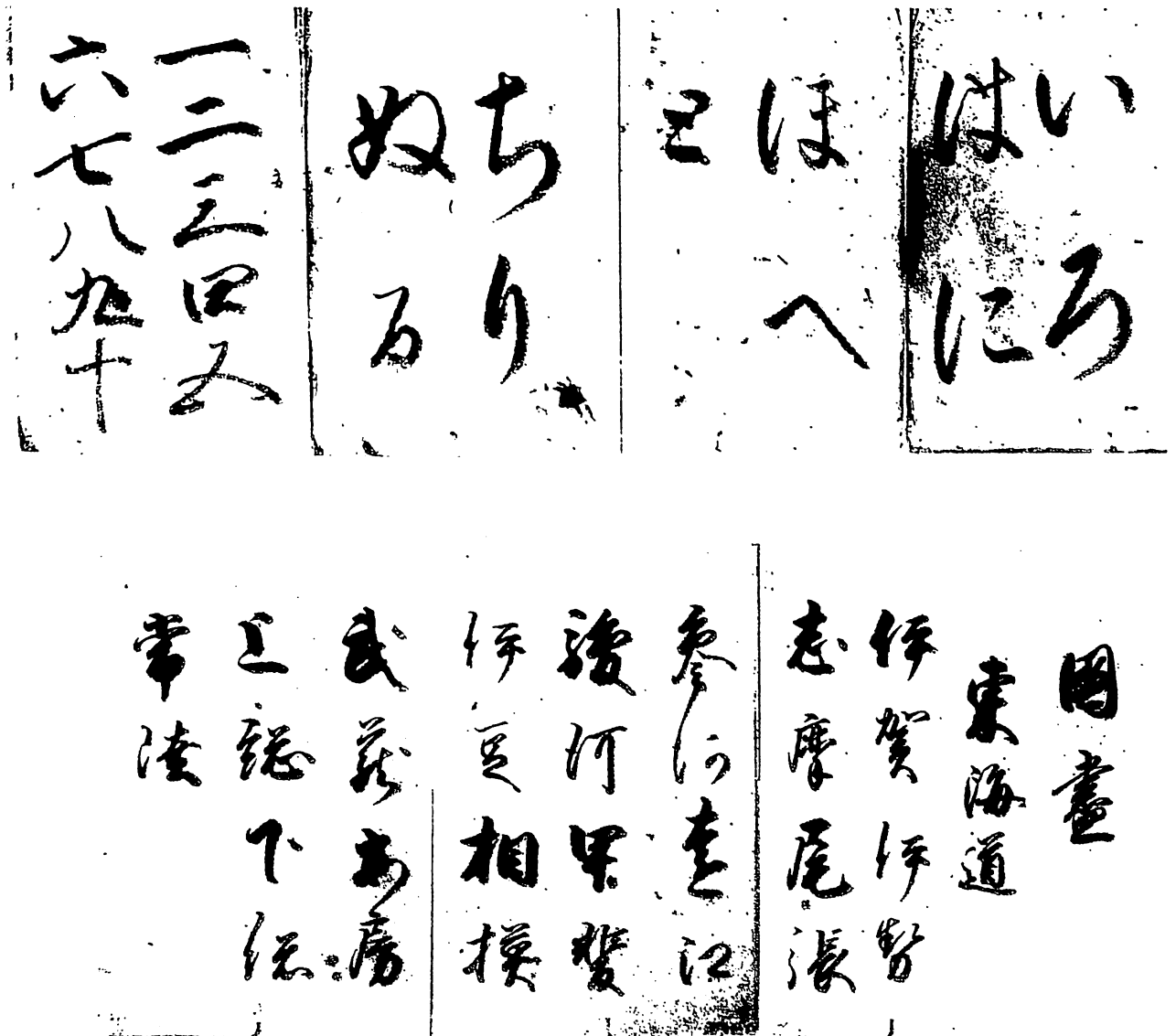
生徒は中流以上の庶民の子弟で殆どが男子でした。

学習内容

初歩の学習は、師匠が書いた「い ろ は に…」などの字を写す習字や、算数では、そろばんを使つての加・減・乗・除 の指導が行われました。当時は割り算九九を教えていたことが興味深いところです。

進んだ学習では「名頭」「国尽」「庭訓往来」「実語教」「童子教」「塵劫記」などが使われました。

手 本

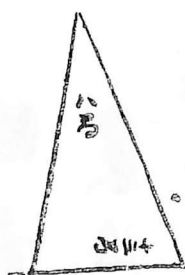


国 尽 奈良時代から明治元年まで用いられた旧国名が全部書かれている

庭訓往来
 春の始の御悦、貴方に向て先づ祝ひ申し候ひ訖ぬ、
 富貴万福猶以て幸甚々々、抑歳の初の
 朝拝は、朔日元三の次を以て急ぎ申す可きの
 処、人々子の日の遊びに駈り催さるゝの間思ひ乍ら延
 引す、谷の鶯の檐の花を忘れ、苑の小蝶の日影に遊ぶに似たり、



庭訓往来
 漢文風にしたためた
 武士の手紙(往来)の
 判例集で、いわゆる
 候文の見本集



左
 8(間) × 13(間) ÷ 2 = 52(歩)



右
 17(間) × 9(間) = 153(歩)

塵劫記

日常生活にかかわることがらから数学を
 理解するように作られた和算書

← 面積を求める問題

左 $8(間) \times 13(間) \div 2 = 52(歩)$

右 $17(間) \times 9(間) = 153(歩)$

研究テーマ 新相模原歴史散歩

1市4町の合併が現実のものとなり、市のイメージも今までのものとはかなり違ったものとなるでしょう。新しい市域を知るとともに以前からの市域も見つめ直すことも必要ではないか と考え、まず 津久井・田名・新戸方面の探訪を行いました。

学習会 「割り算九九によるそろばん算法」 講師 佐藤 豊氏

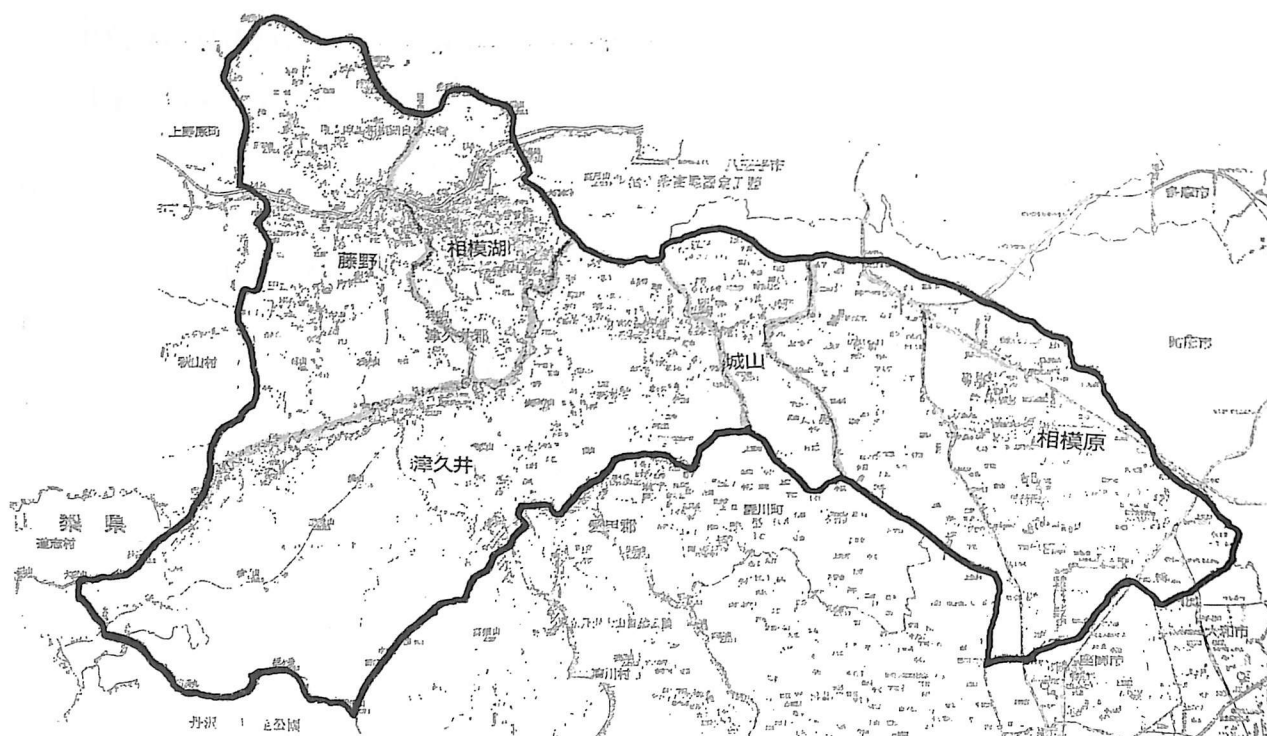
歴史散歩 津久井
勝坂・新戸
田名・向原遺跡
江戸東京博物館「山内一豊とその妻」
江戸東京博物館「江戸の学び」

研修旅行 松本・塩田平

『相模原の自然と文化』 「歴史散歩 水郷田名を歩いて」 矢野 健治

西貝 茂さん ご逝去

新相模原歴史散歩



相武台歴史同好会

2006年3月20日 相模湖町・津久井町と合併した相模原市は、人口66万8千人、面積244平方キロの大都市となりました。

2007年3月11日には、藤野町・城山町と合併することになっています。

相武台歴史同好会では 新・旧相模原市の史跡探訪を実施するに当たり、今年度は、新戸方面・津久井方面・田名方面の探訪を行いました。

新戸方面

一里塚(府中街道・市登録史跡)

徳川家康の霊柩を駿河国久能山から日光東照宮へ奉ずる際に、道しるべとして大小一對の榎を植えた塚が築かれました。今は塚の跡はありません。

陣屋小路(市登録史跡)



江戸時代初期 天正18年(1590) 旗本 内藤清成が新戸に屋敷(陣屋)を設けました。それは内藤陣屋と称されていました。「陣屋小路」はその陣屋に沿った路地のことです。現在では屋敷の痕跡はなく、その一角にまつられていた「陣屋稲荷」と板塀が続く陣屋小路が残っています。

高札場跡(市登録史跡)

昔、ここに高札場(掲示場)があり、役場からの通達などが掲示されていました。この近辺が新戸の中心部だったのでしょうか。

萬年山長松寺(曹洞宗)

元和9年(1623)に根小屋功雲寺の末寺として再中興しました。応永3年(1396)足利氏満が寺領を寄進した文書(寄進状)が現存しています。これは相模原市最古の古文書であり、市指定重要文化財となっています。

白山姫神社

石川県の白山信仰がもととなっている神社で、祭神は伊邪那岐神(いざなぎのかみ)・伊邪那美神(いざなみのかみ)。境内には大きなケヤキやトチの木が立ち並び、「風土記稿」に御神木として記録されているものもあります。

この他に、庚申塔・馬頭観音・地神塔・道祖神などの石碑が残っています。

津久井方面

津久井郷土資料室

津久井湖の水没地域の農村用具のほか、郷土研究家の鈴木重光氏が寄贈された膨大な書籍類などの文化資料が所蔵されています。

三太物語の NHK ラジオドラマの脚本や映画の台本、また明治時代から戦後まで刊行された雑誌や書籍など、歴史の流れを表わす貴重な資料を見る事ができます。

尾崎号堂記念館

「憲政の人」尾崎号堂（行雄）が生まれ11歳まで過ごした尾崎家の屋敷跡。写真・文書・絵・遺品・年表などが展示されています。

尾崎行雄は明治23年の第1回の総選挙に31歳で当選。大隈内閣の文部大臣、東京市長、司法大臣等の要職を勤めました。また、シベリア出兵の反対、普通選挙運動等、平和と民主主義のために尽力しました。戦時色濃い昭和17年には東条内閣に公開状を送り、翼賛選挙の中止を勧告、不敬罪容疑で起訴され、東京地裁で有罪判決、大審院で無罪判決を受けました。戦後も議員として活躍し、当選25回、在職63年の記録を残しました。

小原宿本陣

小原宿は江戸から9番目の宿場で、小仏峠を前にして重要な宿場でした。「片継ぎ」といって、小仏宿から来た人や荷物を、与瀬宿を通り越して吉野宿まで継ぎ立てる。その代わり江戸の方へは、与瀬宿から小原宿を通り越して小仏宿へ継ぎ立てる特殊な継ぎ立てをしました。



田名方面

田名向原遺跡(国指定史跡)

後期旧石器時代末(約18000年前)の遺跡です。建物跡と推定される遺構が発見され、現在のところわが国最古の例といわれます。

川原石で囲まれた円形の範囲には、柱穴や焚き火跡と考えられる部分が発見され、石器作りがここで行われたことを思わせる石器片と大量の剥片が出土しました。また、石槍などは長野県や伊豆、箱根等の黒曜石で作られており、遠隔地との交流が知られるなど当時の生活の一端を示す遺跡です。

江成銀蔵家墓地

江成家は田名の草分けといわれ指導的役割を果たしていました。銀蔵は「新編相模国風土記稿」に出ている江戸天保期の名主。この墓地には一族の石塔がたくさん納められています。

烏山用水・久兵衛土手

烏山大久保藩が安政5年(1858)に作った用水ですがすぐに決壊したので、幕末から明治にかけて江成久兵衛が私財を投じて修復しました。現在は水路沿いに木道が設けられていて、散策路となっています。

久兵衛が烏山用水修復の際、築いた堤防の一部が残されていて、久兵衛土手と呼ばれています。なお、相模川ふれあい科学館の裏に久兵衛の立派な銅像があります。

田名八幡宮

初めは天地大明神で延暦17年(798)勧進と伝えられています。八幡宮となったのは慶安2年(1649)から、祭神応神天皇他。^{まよまた}的祭や獅子舞は有名な行事の一つです。神社裏に珍しい伝承の「ばんばあ石」などがあります。



平成19年

研究テーマ 鳩川の流域を訪ねて

聞き取り調査 栗山 光久氏

歴史散歩 ・下溝地域探訪

・鳩川分水路～武井橋、新磯ふれあいセンター

・磯部帆走見学

・相模湖町・藤野地域

研修旅行 松坂市・伊賀市

『相模原の自然と文化』 「初めての著書『相模の大風』」 涌田 久子



鳩川の流域を訪ねて

相武台歴史同好会

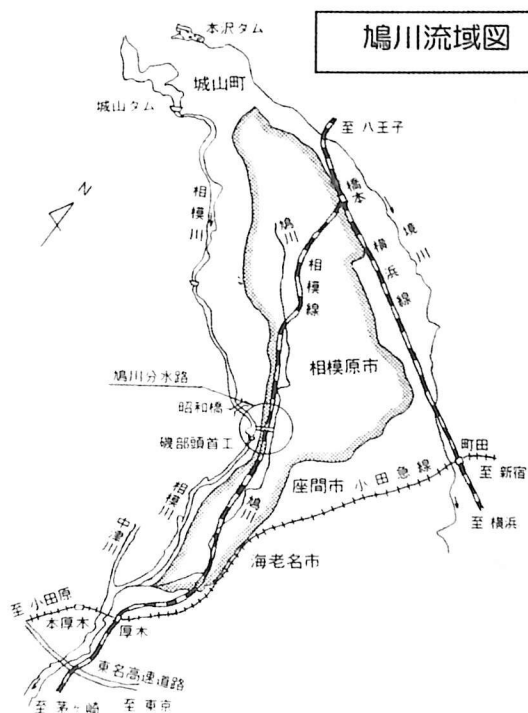
パート1 三段の滝付近

鳩川は旧相模原市域の西側をＪＲ相模線に沿って流れる川で、横山下を水源とし途中、姥川、道保川の二川を合流、海老名で相模川に注いでいる。

昔から稲作その他の農業用水・生活用水として利用されてきた。しかし、時として水があふれ、農業はもちろん住民の生活をおびやかすことがしばしばあった。昭和のはじめに、下溝と磯部の境付近に分水路を作り、相模川へ水を流した。これが三段の滝である。

近年、急速な工業立地と宅地開発によって流域の都市化が進み、鳩川上流部の洪水が増加し、これに対処するために新たに分水路を建設した。

私たちは、まず、三段の滝周辺を見聞することからはじめた。道保川・鳩川と入組んだ水路をはっきりさせ、その後下流の様子を探った。私たちは、そこに相模原という町の歴史を学びたいと思っている。



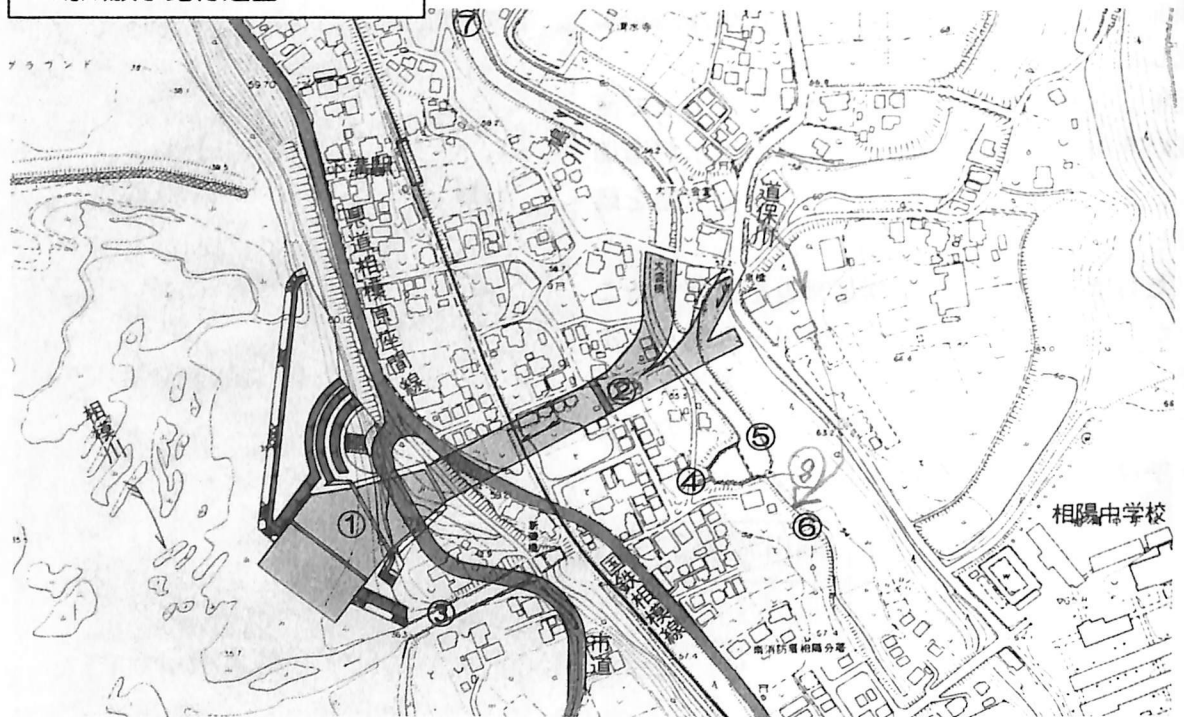
栗山 光久さんの話（下溝在住）

『このあたりは、昔から春と秋の台風の増水により川の水があふれ、農家は大変な被害にあったものでした。6月ごろ植えた稲が流されたり、腐ったりしてしました。また秋には収穫前の水田が門沢橋のほうまで押し流されて、その年の稲作はだめになってしまったこともあります。』

家の近くに鳩川分水路隧道ができました。工事が始まると、毎日見に行ったものです。炭鉱で働いていた人たちが来ていたようです。隧道を作るときに大馬力の石油発動機を使っていました。松の丸太で組んだ小トンネルを作り、コンクリートで固めて覆い作られました。

この隧道の完成により、鳩川の増水はなくなり、磯部から座間・新戸方面の人たちは大いに助かりました。』

鳩川放水路付近図



① 鳩川放水路



昭和56(1981)年～昭和63(1988)年まで約8年かけて築造。

分水路上流域の洪水流出量を全量カットして相模川へ放流している。

近年、上流域の都市化による洪水流出量の増大に対処するために造られた。

総事業費約50億円。

鳩川の流れと比較して巨大なのに驚かされた。

「こんな巨大なものが本当に必要なの？」と聞いてみたくなる。

② 鳩川と道保川の合流地点

左；鳩川、中央；道保川、右；麻溝台方面からの雨水。ここは鳩川放水路の一部。兩岸の高いコンクリートの壁に驚かされ、圧倒された。



③ 鳩川隧道分水路（三段の滝）

中央に見える玉石の壁がいわゆる三段の滝の一番下流の滝。その上部の草が茂っている所は水路で、その奥に隧道、一番目の滝、二番目の滝がある。

（現在は分水路としては使われていない）



④ 鳩川隧道放水路の隧道

鳩川の水がこの隧道・三段の滝を経て、相模川へと放流された。昭和8年(1933)年に完成した。隧道入口上部には右書きで「道隧川鳩」と記されている。この近くに住む古老の話によると、炭鉱のトンネルの専門家が最初に坑道を造った。トロッキを使い、飯場もあって大工事であった。



（左写真の）鳩川の流れを左上にある水門で堰き止めるか、増水すると（右写真の）鳩川隧道放水路へと流れる

⑤ 鳩川隧道分水路標識

隧道上部には、コンクリート製の標柱が2本立っている。**鳩川放水路** **昭和八年三月式**と記されている。

左奥に見える流れは、昔の鳩川から隧道への流れ。



⑥ 昔の鳩川の様子を偲ばせる流れ

鳩川分水路、鳩川隧道分水路より少し下流の流れ。



流れている水は、道保川から地下水路を通して流し込んでいる（川縁に自然が残り、昔の鳩川はこのような流れではなかったか？）。現在は、両岸が石垣やコンクリートの壁になっていて、人が入らないように（落ちないように）金網の柵がめぐらされている所も多い。

⑦ 鳩川と姥川の合流地点

左；鳩川、右；姥川。

鳩川放水路のおよそ1.5km 上流。

両岸の高い石垣が際立っている。



平成20年

この年から矢野健治会長となる

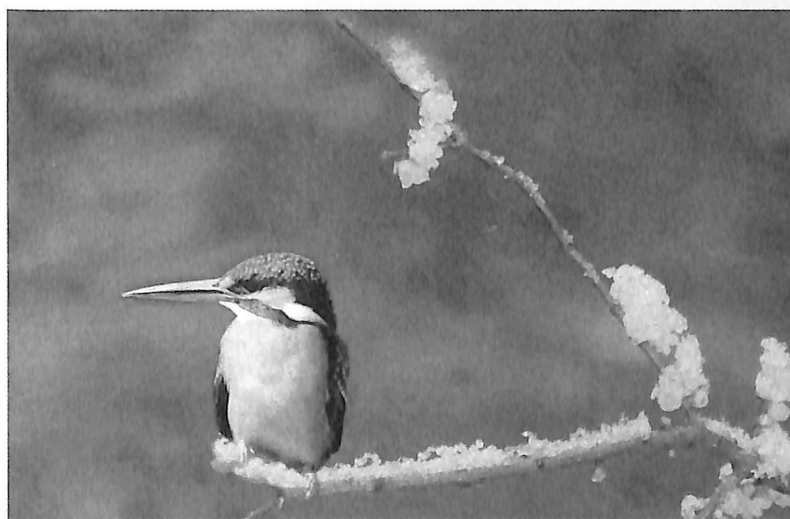
研究テーマ 鳩川の流域を訪ねてⅡ

学習会	「新戸の歴史」	講師	安藤和次郎氏
	「新戸の歴史」	講師	平片 勝美氏

聞き取り調査 溝呂木 明氏
川崎喜代治氏

歴史散歩 ・津久井方面
・鹿沼排水隧道

『自然と文化』 「鳩川の昔と今」 高橋 玉江



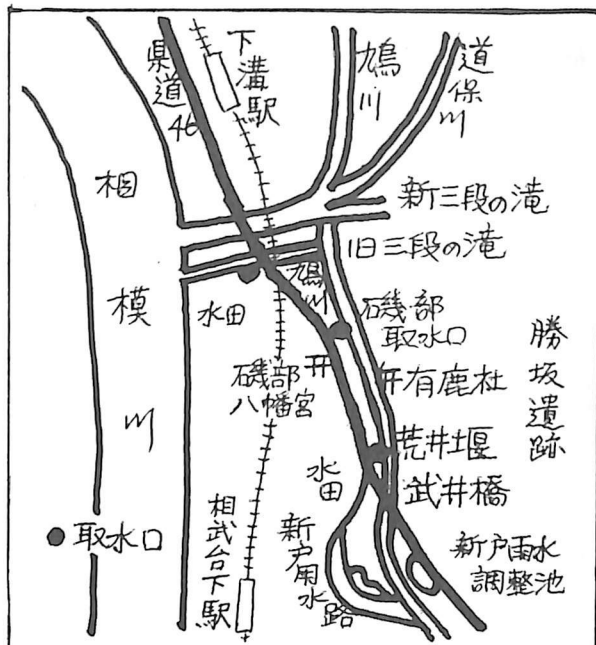
鳩川の流域を訪ねて II

鳩川の昔・今 ～利用と水害・治水～

相武台歴史同好会

昨年、鳩川について調べるにあたって、まず三段の滝周辺を探ってみました。そして、その巨大さに驚き、なぜ?と思い、新三段の滝(鳩川放水路)の仕組みや造られた理由などを調べてみました。

そして今年は、昨年の継続として、鳩川がどのように利用されてきたのか。また、どのような水害があり、治水はどのように進められたかを調べてみました。そして、現在と昔の鳩川を見つめてみました。



I 水の利用

1. 有鹿さまの水もらい



勝坂遺跡の崖の下、有鹿谷の有鹿社

勝坂遺跡の崖の下、有鹿谷には今も清水が湧き出し、流れ下って鳩川に注いでいる。この泉の所に小さな祠がある。

毎年4月に、海老名の有鹿神社(式内社)から神官が来て、祭事を行っている。

この祭事は、天正3年(1575)から続いていて「有鹿さまの水もらい」と言われている。鳩川の水を海老名耕地で有利に使うための祭事であり、かつて地元の磯部、下流の新戸・座間などと祭事の時、いさかいがあったと言われている。

2. 用水路



武井橋の荒井堰

鳩川の水は農業用水として貴重なものだった。

磯部鳩川用水路、荒井堰、旧三段の滝、などが
今もその面影を伝えている。今でも一部の水田
で利用されている。

なお、めえ(前)の川として親しまれた新戸用水
路は、明治時代の火事の時消防用水路として造
られたものだが、現在はコンクリートの蓋がされて
いる。

3. 水車

鳩川では江戸時代の中頃からたくさんの
水車が造られていた。上溝村に19(明治2
2年)下溝村に9(同13年)磯部村に8(同
14年)あった。

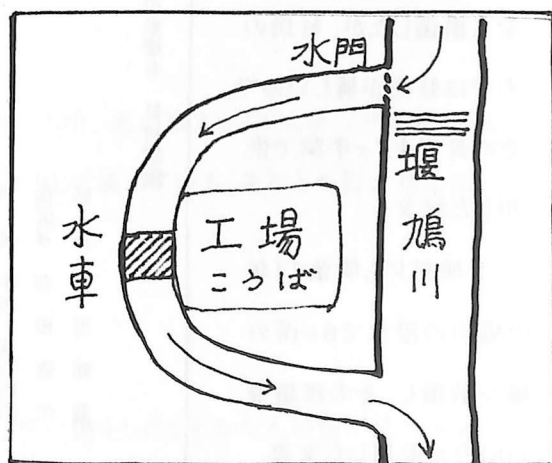
精米・製粉、綿打ち、油絞り、揚場の糸杵
を回したりもした。昭和30年代まで稼動し
ている所があった。



田名・相模川ふれあい科学館の庭にある水車



上磯部、溝呂木宅の脇、昔の水車の水路が
通路になっている。

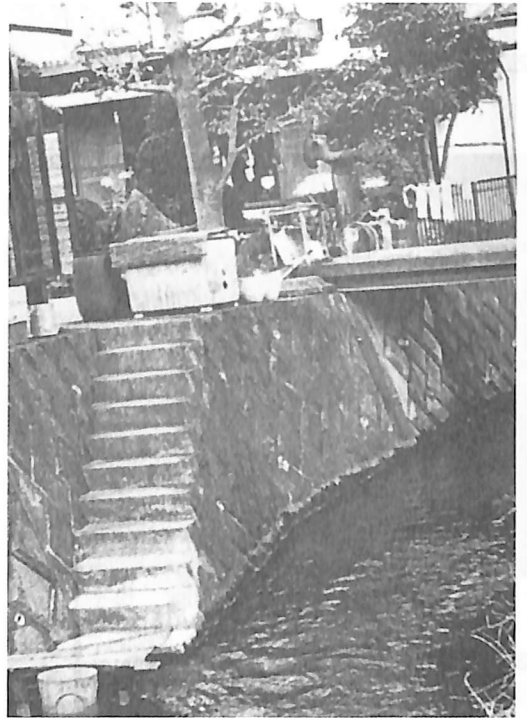


4. 生活との深い関わり

現在、写真のように川面に降りられるのはここだけですが、川岸がコンクリート化される前は、どの家も川面に降りて行って、農具や野菜などを洗ったり、洗濯もしました。魚がいて、うなぎやなまずは仕掛けを使って捕らえ、子どもたちは釣ったり、ざるなどで小魚やえびなどをすくってとったり、小さな蟹をつかまえたりしました。夏には、子どもたちが川に入って水遊びをしました。川岸には草花が茂り、蝶やとんぼがたくさんいました。黄セキレイが尾をせわしく振っていたのが今も目に浮かびます。ホタルもたくさんいて竹ぼうきでつかまえたりしました。

鳩川の流れは生活と深く関わっていました。

(高橋玉枝さんの話)



上磯部、溝呂木さん宅

II 水害

1. 「明治九年水害修繕費拝借金請取」

明治8年の暴風雨の水害で、橋・用水堰などが全て損傷したが、村民の力では修繕が難しいので、その費用を7ヶ年賦で借用した証文。

下溝村にも明治11年の鳩川の浸水で6ヶ所の橋が破損し、その修繕費100円を借用した文書

がある。

八 明治九年 水害修繕費拝借金請取	拝借金証	第貳拾大区八小区
	一金八拾壹円	相州高座郡新戸村
	右は明治八年八月中近來稀成暴風雨ニ而、水災ヲ被リ 道路橋梁用水堰等悉ク損傷仕、修繕難及民力候ニ付、 修繕費拝借奉願候処、特別之訳ヲ以七ヶ年賦拝借被仰 付、拝借金請取申、返納之儀は、書面割合之通大区ニ取 纏メ、年々四月限り無遅滞上納可仕、尤皆納之節ニ至 リ納証書ヲ以、此証文と御引換可奉候、依而後証如件 明治九年九月	
第貳拾大区八小区	相州高座郡新戸村	代議人 長谷川嘉右衛門 村用掛 川島 弥右衛門 副戸長 安藤 庄左衛門 戸長 中村 喜右衛門 副区長 和田 直榮 区長 田所 範高
神奈川県権令 野村靖殿		

(相模原市史.第6巻 P584)

Ⅲ 治水

昭和30～50年代に都市化によって住宅や工場が増加し、それまで保水の役目をしていた田畑が減り、市街地のコンクリート化が進んだ結果、今までも増して大雨による浸水が増えた。これに対応して、種々の工事がなされた。

1. 新戸雨水調整池

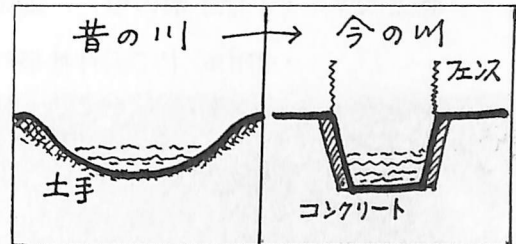
昭和30～50年代、相武台では大雨による家屋への浸水が度々あった。その相武台地域の雨水は、地下の排水路を通してここに流している。

2. 橋・両岸のコンクリート化など



新戸・宮野橋付近の鳩川

- ・昭和57年(1982)～平成11年(1999)に全ての橋がコンクリート製になった。
- ・両岸もコンクリートや石垣になった。
- ・フェンスが取り付けられた。(磯部八幡宮あたりから下流)
- ・流路を直線化した。



まとめ 一川の様子と人との関わりー

- ・ 川床には、砂利が溜まっている所、草が茂っている所、泥が溜まっている所などがあり、透明な水が曲がりくねったり瀬をつくったりよ澱んだりして流れている。魚などの姿は見えない。ビニール袋や空缶・紙屑などが所々にある。
 - ・ 洪水のおこらない頑丈な排水路になっている。
 - ・ 人々の生活との関わりがなくなっている。
- 水辺で遊ぶ子どもの姿や、うなぎを捕まえたり、洗い物をしたりする大人の姿が見られない。川への親しみがなくなっている。

☆ 昔、川がもっていた人との深い関わり、その豊かさを取りもどしたいと、強く思う。

平成21年

研究テーマ 宮川の流れる谷の今・昔
ーかつてワサビ作りが盛んだったー

聞き取り調査 武井イセ子氏
座間 昭三氏

文化財探訪案内 「勝坂遺跡・三段の滝など」

緑台小学校4年生授業「町たんけん」 矢野 健治・涌田 久子

歴史散歩 ・「照手姫の里」 講師 安藤和次郎氏
・古山の十二天神社祭り見学

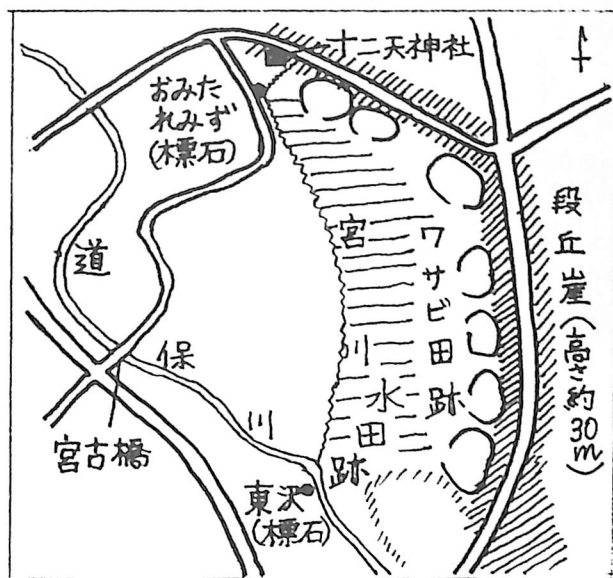
研修旅行 甲府方面

『相模原の自然と文化』 「相武台歴史同好会と私」 遠藤ヒロ子

宮川の流れる谷の今・昔 —かつてワサビ作りが盛んだった—

相武台歴史同好会

下溝・古山(略図)



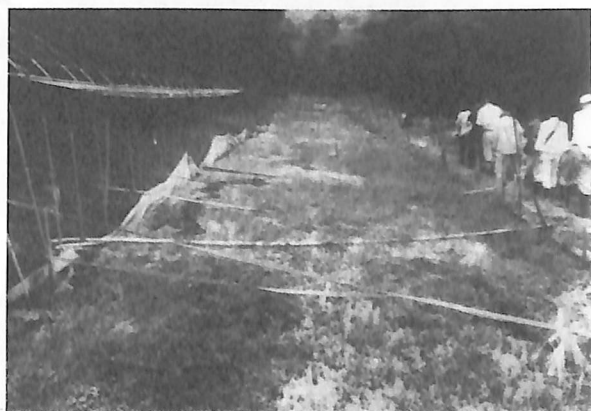
私たちは、下溝・古山の湧水について以前から関心を持っていたが、その湧水を利用して、かつてワサビが栽培されていたことを知り、今年度はここの現在の様子を調べてみることにした。

私たちは現地を6回ほど訪れ、見学するとともに地元の人々に案内していただいたり、話を伺ったりした。

1 宮川が流れる谷の今・概要



左奥に宮川、手前畦道



左・ビニールハウス跡、中央部は雑草

- ・ 谷全体を一面に湧水が流れている。
- ・ 宮川は各写真の左端を流れ、ワサビ田跡は写真の右側の木立の奥。
- ・ 昭和40年頃まで稲作が行われていた。その後、ビニールハウスを造り、クレソンの栽培が行われたが、耕作者の都合で規模が縮小されたが、現在も栽培されている。

2 ワサビ田だったところの今

(1) 使われていない所



砂が流失し、水も流れていない



水流は一部だけ、一面に雑草

(2) クレソンの栽培に使われているところ



収穫されたクレソン



クレソンが栽培されているワサビ田の跡地

ここでのクレソンの栽培は、昭和30年代に始められ、40年代に本格的に行われるようになった。その後、規模が縮小されたが、現在も栽培されている。

この谷の湧水は、水温が13～15度で、次第に減少しているとは言え、水量も豊富でクレソンの生育に適している。肥料は不要であり手間がかからないが、カモ・白サギなどが飛来してきて芽を食べるのでネットを張ったり、冬、寒さから守るため寒冷紗で覆ったりしている。

クレソンは一年中収穫できる。背丈が50cmぐらいになったら根元から刈り取り、上部を28cmぐらいに揃え、束ねる。これを業者を通して横浜や東京に出荷している。

(3) ワサビを栽培している所

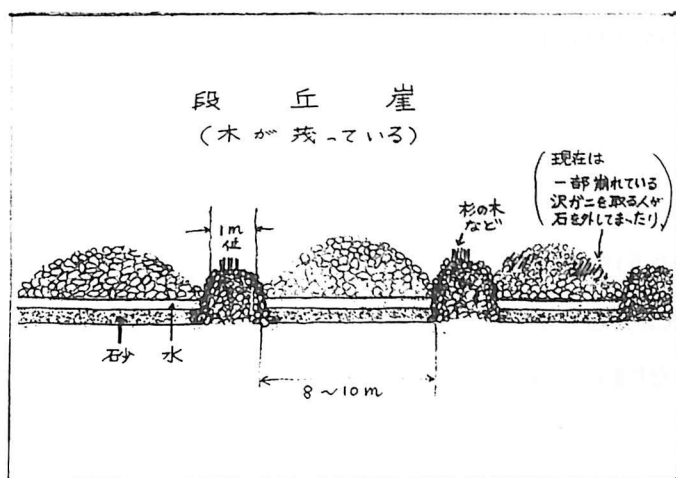


・ほんの一部でワサビが栽培されている。

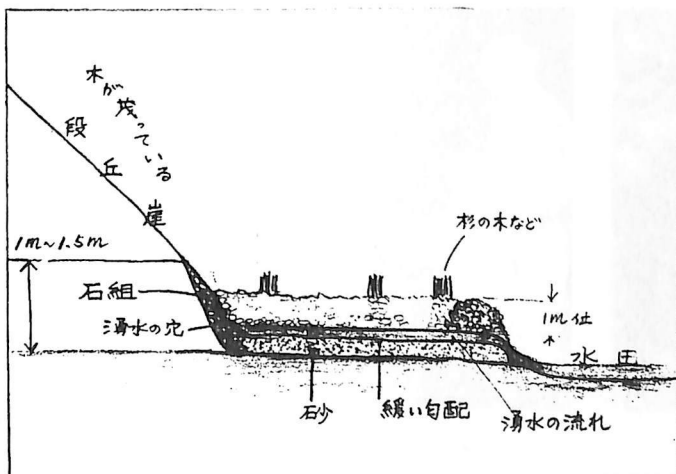
・細かい砂利の上を一面に湧水が流れている。水深 5cm 位。

上部に日除の黒い布状のもの。

3 かつてのワサビづくり



・ワサビの栽培は幕末に始められたと伝えられている。とくに盛んだったのは戦後で、15~20軒ぐらの農家が、合計5~6反ぐらの広さでワサビ作りをしていた。戦後の混乱期、農家では農閑期、出稼ぎや土木工事に就く人が多かったが、ここではワサビ作りに取り組んだ。



・ワサビの栽培は肥料が不要で、あまり手間がかからず収穫期が2~5月の農閑期なので都合がよかった。また、当時としては貴重な現金収入になった。

ワサビ田は、豊富な湧水が流れる段丘崖直下の緩い傾斜地を、わずかな勾配のある平面に掘り下げて造られている。掘り下げた所から出た石を、削り取った崖面や側面に石垣状に積み重ね、平面を砂地にし、常に水が一面に流れるようにしてある。この砂地にワサビの苗を植え、育てる。

この湧水は水温が一年を通じて13～15度位、水深が5cm位で流れるのでワサビの生育に適していた。ワサビの生育には、直射日光でなく木漏れ日が必要なので周囲に大きな樹木が繁るようにしてある。段丘崖を削り取った所の石組みには所々に横穴がうがたれていて、湧水量が多くなるように工夫されている。

ここは伊豆の山地や信州などと比べて気候が温暖なので、ワサビは一年で成長し、愛川町などで採れたものと一緒に「溝ワサビ」の名称で仲買業者を通じて横浜や東京の市場に出荷された。

昭和40年代になると産業が盛んになり、段丘上が開発された。それに伴い湧水量が減少し、水質にも変化が生じた。また、ワサビ泥棒が増え、監視小屋をつくって守るなどの苦労も生じた。また、伊豆、信州などのワサビづくりが大規模化し、これらのワサビが大量に出回るようになった。これらのことから会社などに勤める人が多くなり、ワサビづくりは行われなくなった。

4 おわりに

私たちは、この地の自然を巧みに活かして稲作、ワサビ作りがかつて行われ、現在は、クレソンが栽培されているのを知りました。傾斜地を掘り下げ、湧水量を増やすとともに、出てきた石や砂でワサビ田を造り、さらに周囲を樹木で囲み木漏れ日が差すように、工夫されているのに感心しました。

最後に、地元の方々には大変お世話になりました。親切にいろいろ教えて頂きました。誠にありがとうございました。



崖を切り取った跡の石組



ワサビ田跡で地元の人に話を伺う

会員の言葉

(付) 在籍者一覧

会員の言葉

(旧会員)

相武台歴史同好会30周年誌発行記念として

渡辺 敦子

相武台歴史同好会30周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

私は、10周年誌発行の頃まで在籍していました。個人では、経験の出来ない、史跡調査、史跡散歩、拓本とり、市の文化財展参加等…実学を体験させていただきました。今では私の心の中の大きな宝物です。元気で楽しく学び、遊び一年一年が充実していました。当時は大先輩で、ちょっとは気を使っていたましたが、今では、私も高齢者で、同期のお仲間となり、気楽にお付き合いさせて、頂いています。勝坂遺跡、有鹿神社、中村邸等は、すっかり様変わりし、市の管理で、市民の癒しの場、公園になっていますね。30数年前、あの時歴史同好会で、勉強していたから、今の地域の変わり様、歴史の流れを体で、深く感じられます。これからも元気で、相模原大地の流れを、見つめて行きたいと思っています。

相武台歴史同好会の益々の御活躍と、御発展を続けられます様に、お祈りして、お祝いのことばと致します。

磯崎 陽子

此の度、相武台歴史同好会「30年誌」発行されることおめでとうございます。

私が同好会に入会致したのは、昭和57年6月の頃でした。相武台団地に移り住んで、14年は過ぎた頃でした。住んで居るうちに相模原の歴史を知りたくなり始めた頃丁度良く「大山街道石仏めぐり」でした。相模原は昔は自然そのもの原野で、古老の話によれば終戦前頃までは、キツネやタヌキも出たそうです。その後、金井先生の歴史講座が月一回有り、又月一回は歴史散歩がありました。歴史散歩が楽し

くてリュックを背負って、講義を受けた所を散策して行きました。三増合戦場、中津川塩川の滝、昭和61年2月25日史跡散策曾我梅林、ミカンもぎ取り、炭焼きの実演見学等、天候にも恵まれ楽しい一日でした。又6月には目黒自然教育園と等々力溪谷を歩きました。東京でこんなに緑におおわれて川が流れて涼しく散歩が出来て楽しかったです。7月7日は姥川上流を訪ねて、亀ヶ谷池、照手姫の碑を見る、ここで毎日顔を洗い髪をなおして居たとのこと印象深く今でも心に残って居ります。又平成1年5月16日にひなづる伝説（金井利平先生を講師に相武台歴史同好会がお話を聞いたとき）先生の資料「南北朝時代と相模原」よりを参考にして「雛鶴姫伝説を訪ねて」行って来ました。本田様、広重様、久保田様、私と4台の車に分散して行って来ました。今の雛鶴神社は小さな祠で林の中にひっそりとありました。ただ悲しいと言う一言につきました。それから二宮尊徳先生の話から記念館に泊したり、小田原の一夜城、絹の道も歩きました。又現在の橋本から横浜線の由来、橋本から茅ヶ崎駅の由来、勉強になりました。

私は平成14年2月から現在淵野辺に転居して居ります。相武台団地には33年間居り第二の故郷となって居ります。

淵野辺と申しますと歴史で勉強しました。忠正伝記、鎌倉で護良親王を手にかけてたとされたる淵辺義博にゆかりの地でした。横浜線淵野辺駅の北から東に広がるこの地区の地頭だった淵辺の屋敷があったとされている。団地に居る時に同好会で、この碑を訪ねて行ったことがありました。「淵辺伊賀守義博居館跡之碑」とあります。「でいだらぼっち」の由来、淵野辺駅南口淵野辺公園のこと。又現在大野北中学校や近くのゴルフ場やその近くは兵器廠陸軍通信営など軍施設を相模原に移す。いわゆる軍都計画が進んで居たそうだった。その跡地に小さな四角石に刻まれて有りました。今私は近くに色々な歴史が身近にあることに以前勉強したことを思い出して居ります。村富線がまだ開通する前から歴史同好会の皆様と随分散策した所でした。

相武台歴史同好会に入会して良かったと思って居ります。ますますのご発展をお祈り申し上げます。

歴史に興味を持つ人達が集って

三井 博男

明治の後半から大正、昭和にかけて私は 日本の軍国主義の時代に育った。昭和19年10月関東軍の予備士官学校の生徒で見習士官だった私は、内地で教育を受けるため今の相武台前駅、当時は士官学校前と言う小さな駅に降り立ち陸軍病院（国立病院）まで広い農地を駆け巡ったことを覚えています。そんな事が縁で相武台団地に住むようになって、平成8年前後にサークル「歴史同好会」に入部し、同年配の人々が多かったので約10年間在籍してました。あの頃は中年の若気で元気な男女が寄り添って歴史同好会の看板を背負って、各地を訪ね歩きました。

関東地方の町、山、湖などを訪れその地方に伝わるエピソードを集めて歴史同好会で発表検討などをしたものでした。

広重 弥さんも夫婦で入会しており旦那さんが、タクシーの運転手だったので神奈川県内の地理には大変くわしかったので車の出向では非常に便利でしたので特別協力もしていただきました。

あの頃は比較的若い老年の人達の集まりでしたので雲取山、箱根、都内の公園、巣鴨の地蔵、中央沿線の山々を訪ねたりして非常に楽しかった事が記憶にあります。

（平成8年頃の会員）

歴史同好会の思い出

富永ナル子

相武台歴史同好会が30周年になると聞いて、月日の経つ早さにびっくりしています。よくぞここまで続けて来られたと、会員の皆様に頭が下がります。途中で辞めてしまった者として、心からエールを贈らせていただきます。そして、私が会員としてお世話になって居た頃を懐かしく、思い出しております。

会が発足した1年後にお仲間に使っていただき、定例会での勉強会・歴史散歩・文化財展等々で約15年位楽しませていただきました。親集落である新磯地区には、

石楯尾神社等の神社や勝源寺・勝坂遺跡など沢山の歴史があります。中村家住宅は赤ひげ先生を思わせるような診療所でした。今では、建物が公開されていて、先日夫と出かけて行き見てきました。又有鹿谷にも行きましたが、地形が変わっていました。ここも、20数年前「川にな」がいたので、ほたる見物にと同好会の皆さんを誘い、暗闇の中の大きな木にほたるが沢山灯っているのを楽しみました。

歴史散歩では、下見に参加して、その土地の役所に行って歴史家の長老を紹介して頂き訪ね、楽しい昔話を聞かせて頂いたりしました。思い出の深いのは「ひなづる姫伝説をたずねて」（津久井町―秋山村―都留市）は、宮原さん・本田さん（二人共故人）と担当し「しおり」を作って皆さんを案内した事です。もう一度訪ねたい所の一つです。

今私は、手づくりの布絵本・おもちゃを使って、幼児さんから小学生・支援級・高齢者等とふれあうボランティア活動をしています。市内外に出かけますが、以前歴史散歩で訪れた土地に又行く事があると、懐かしく当時を思い出します。ご一緒した数名の先輩との悲しい別れもありましたが、お元気な方から便りを戴くと懐かしくうれしいです。これからの歴史同好会が益々発展される事を心から応援させて頂きます。

30周年記念にあたり

右田 順子

歴史同好会、30周年記念おめでとうございます。

私がこの会に入らせて頂いたのは2007～2008年の2年間という短い期間でしたが、素晴らしい方達の中で2年間一緒に活動させて頂けた事感謝に思います。

年齢を感じさせないエネルギーのある会という印象でした。会員が常に目的意識を持ち受身ではなく疑問点を考え解明していくという表面静かな方達が多いのですが、とても行動的な方達の集まりという印象を持ちました。涌田さんの大風について詳しく調べた資料、矢野さんの相模原近辺に流れる川についての発表、どれも驚

きでした。いいかげんに生きてきた私には、詳細に調べるという過程そのもの自体も驚きでした。どうして？なぜ？一つ一つ解明していく作業をながめながら私がいかに疑問を持たずノホホーンと生きてきた事思い知らされました。

生来怠け者の私はこのままノホホーンと生きていきそうです。

2年間の中でとっても悲しい出来事がありました。会の中でとても熱心に活動されていた西貝さんが山へ行き転落されお亡くなりになられた事です。いつも綿密な下調べをしてくださり、会で旅行した折も西貝さんがして下さり、お陰で、スムーズに楽しい旅行が出来た事感謝でした。葬儀場に西貝さんが写された写真のパネルが飾ってありました。まだお元気で、これからいっぱいやりたい事おありだったでしょうに……

皆様いつまでもお元気で……

益々の御発展心よりお祈り致します。

30周年記念おめでとうございます。

想い出の相武台歴史同好会

谷口千鶴子

同好会30周年記念誌発行のお知らせを頂き月日の流れの早さに驚かされています。又これは会員の皆様の永年に亙ります、努力と研鑽、結束の賜であると、心からの賛辞をお贈りしたいと思います。

昭和54年、公民館での歴史講座の終了後に有志により発足致しました時は、確かに数名であったと記憶致して居ります。ふるさと相武台とその周辺の人々の庶民の歴史を探りたい、という思いを与えられましたよい機会であったと思っております。

その頃はまだこの辺りは豊かな自然も残されて居り、町田から移転し子育ても一段落の私の楽しいサークル活動の始まりでした。

歴史散歩、史跡巡り、文化財展出品制作と年齢も様々な御仲間と和気藹々と楽しく過ごさせて頂きました。多くの方々との出会いもあり、生涯の中での豊かな想

い出作りの時代であったと感謝して居ります。しかしあれから30年、ともに肩を並べて語り合いました旧会員の何人かの方は今は故人となられてしまいました。尊徳記念館に宿泊致しました夜のHさんのハーモニカの調べ、奥多摩湖畔の民宿の夜の星空の美しかったこと、Mさんも御一緒でした。思い出の写真の中の御顔は皆笑顔、時折懐しく思い出させて頂いて居ります。

相武台歴史同好会、此度の30周年を基点としてこれからも郷土の先人達の歴史文化とその足跡を尋ねつつ、郷土への愛を育んでいって頂けたらと願っております。

30周年記念誌発行、心よりおめでとうございます

三十周年おめでとうございます

和田美代子

かつて我家の庭から米軍基地内の橋があった処をみせてほしいと訪れた方々が歴史同好会でした。それから数年後、涌田久子さんから日光旅行を誘われましたのが歴史同好会の旅でした。

日光東照宮は確か三百五十年祭とかでお旅所までの大名行列を観ることができ貴重な旅となりました。会長は今は亡き久保田浩子さんでご高齢でしたがとてもお年にみえずお元気な方でした。

これがご縁でお仲間にしていただき市文化財展、地域の歴史の勉強など楽しく参加して参りました。

年一回の一泊旅行は涌田さんの細やかな解説付旅行で他では得られない有意義で楽しいものでした。

三年前に湯河原と相武台を行き来する生活になり定例会も欠席することが多く、心残りでしたが退会いたしました。

これからも会の存続御発展を心から願っております。

クレソンのバター炒め

小川 敏夫

今日は8月6日、明日は立秋なのに今年の夏は猛暑日が続いている。午後用があって相武台公民館に行くと、ロビー奥に相武台歴史同好会の文化財展に発表した「宮川が流れる谷の今・昔」が何枚も展示されていました。とても懐しく写真や説明を読みました。思えば昨年夏、下溝古山の武井さんに案内していただいて、宮川の湧水とクレソン畑、そしてワサビ田の跡、長靴を履いて畦道を一列で歩いた歴史散歩、昔の農家の副業として盛んに栽培されていた話を聞いて、とても興味深く耳を傾けました。

ワサビ田があった畑に今では白いカラーの花がたくさん咲いていたのが印象的でした。昭和40年代になると段丘上の宅地開発、水質変化等でワサビ作りは終わっているが、クレソンは今でも多少ながら栽培している。帰りに両手にいっぱい程のクレソンをおみやげに頂きました。家に帰ってから、夕食のおかずと一緒にバター炒めしたクレソンがほんの少しになって食器の中にあった。とても美味しく頂きました。

この度は相武台歴史同好会発足30周年との事、誠におめでとうございます。私は昨年一年間と短い期間でしたが、皆様には大変お世話になり有難うございました。とっても楽しく勉強させて頂きました。貴会の今後が益々発展されますように、又会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。

はじめての参加

高橋 玉江

歴史同好会30周年おめでとうございます。

私が同好会に入会した時は、すでに「畑かん用水路の今」の調査が終りまとめ誌が出来ていた時でした。同時に一般募集で「畑かんの用水路をたどる」という文化財探訪が行われる時で、あまり内容も解からず皆さんと一緒に陽光台から相模台の

行幸道路までを会長さんの説明を聞きながら歩きました。畑かんとは何のために作られたのかを多少知る事が出来ました。今も畑のところどころに残っているヒューム管をみると、水を送った管という事をあらためて知る事が出来ます。

まとめ誌を読み大変な年月と費用がかかった大事業だった事を知り驚きました。同好会の皆さんの調査も大変だったと思います。

これからも皆様のご活躍に期待しています。

渥美 寿夫

30周年おめでとうございます。

私が歴史同好会に籍を置いたのはその3分の1にも満たず、会への貢献度も零に等しい。まことにお恥ずかしい次第です。

私が入会したのは今は亡き久保田浩子さん（当時・会長）の誘い。ちょうど「畑かん事業」の跡地を探るテーマに取り組み始めていた頃で、私はそのテーマが選ばれた経緯も目的も知らず（ろくに説明も受けず）言われるまま皆に付いて回ったものです。月例会の或る日、私は「もっと郷土の事を知りたい」と発言したら、久保田さんは色をなして「そんなの自分で勉強すればいい」と高飛車。久保田さんとは詩吟の仲間、気心も知れていたが、さすがにその時は私もカチンときて「そんなら会に入った意味がない。やめる」と席を蹴って部屋を出ようとしたら驚いた会の人たちが私を追って両腕を掴んで私を引き戻しましたよ。家にまで尋ねて来られて慰めてくれた人（広重さんだったと思う）もいて……。仲間意識が強かったのですね、この会は――。あとで分かったのですが、このテーマは会長である久保田さんが市から示唆され、久保田さんにとっては“ライフワーク”ともいえるものだったんです。その久保田さんが皆を号令（？）して5年間かけてまとめ上げたテーマ、あとは印刷にまわすだけという段階で急逝したんですから！

歴史同好会はあくまで“同好会”で研究機関でも学術団体でもありませんから、私が入会して得たものはかけがえのない会員との「交情」でした。県外へ出での博

物館見学、NHKの大河ドラマに因んで日光や信州や愛知などへの一泊旅行、時には涌田さん宅のお庭でバーベキュー等々……、走馬灯のように次々と浮かびます。

私は故あって（妻が認知症）会から退きましたが、心はいつも会員のつもりでおります

（現会員）

畑地かんがい用水調査の思い出

広重 弥・やよひ

虹吹分水池に行くたびに気になっていた。水は何処を流れて来たのか、この水源は何処にあるのか、それを自分の足で確かめたくて上流に向かって水路の跡をたどって行く事にした。畑地かんがい用水のことは地元の人にも忘れられ、当時の工事を知る人も今は少なくなっている。間違いを繰り返しながら歩いて来た水路は虹吹分水を起点にして上溝サイホン～JR相模線を横切り鳩川を渡り（水路の上が橋になっている）葛輪からはヒューム管で地下深く殆んど直線に近く大島方面へ進み、大島からは相模川沿いに上り、県道長竹～川尻線を水路橋で横切り津久井分水池へたどり着いた。水路の流入口の上に「畑地かんがい隧道」の文字板が残っていた。津久井分水からはトンネルで沼本ダムへ登り、ダムの堰堤のすぐ上に水路の流水口が有り、相模川の水を水源としていた。畑地かんがい隧道の文字板を確認したときは米の増産のために壮大な計画を実行し、事業を成し遂げた人々を思い、胸に熱いものが走るのを感じた。

（広重 弥さんは現在体調をくずし休んでいます）

30年をふりかえる

永田カズヨ

昭和44年8月、縁があってこの相武台に移って来てから40年余の年月が経ち、私の第2のふるさとなりました。駅前にはお店らしきものは1,2軒 団地行のバスも数少なく、下見に来た時は主人と二人だけの乗車でした。人に会うこともなく心細さはつのるばかりでした。赤土とすすき、そして広大な野原そんな印象でしたが、夜見上げた空の星の美しさは忘れることはできません。団地の真中にあったコンクリートの壁の道路がトンネルとなり、隣接した林がグリーンパークに、周囲の空地も住宅地となって、今では、昔の面影を知る事は無くなりました。

30年の間に同好会も多くの出会いや別れを味わいながら今日を迎えています。新しいメンバーで新しい会として今後も活動して行く事でしょう。

いつまでも、元気で、楽しく。

小机城の見学

遠藤ヒロ子

相武台歴史同好会に入会して、1年が過ぎ少しずつ会の様子が、わかってきたところです。文化財研究の合間を使い、7月8日会員6名で、小机城跡へ歴史散策に出かけました。

横浜線小机駅より、線路に沿って15分ほど歩き、ゆるやかな坂道を登って行くと、登城口があり、根小屋と書かれた案内板がありました。竹林や雑木林の自然公園として、手入れされていて、標高42メートルの城山と呼ばれる丘陵です。郭を目指して進んでいくと、一の郭には「比高二重土塁壕」と呼ばれる空堀が見えました。主郭は45メートル程の正方形で南東に井戸跡があり、周囲を土塁が取り巻いています。三の郭は周囲が空堀に取り囲まれ、空堀に侵入した敵に対して、効果的な横矢を放てる位置にあります。二の郭には櫓台や物見台があり、自然の地形を利用した広い郭で南東にかけて、低い土塁がありました。これは完全な形で姿を残し、中世山城

の特色をとどめているところです。小机城は永享の乱（1438～39）後に関東管領上杉氏によって築かれたと、考えられています。

下側におりて、竹林、雑木で囲まれた崖や空堀、郭を見上げると、当時戦った人々の声が聞こえてきそうな気がします。私には初めての、山城見学でしたが、こんなに身近で、歴史を探れるとは、思ってもいませんでした。

記念の京都旅行

涌田 久子

平成20年の6月頃から体が疲れやすくて5分以上続けて歩くことが困難になった。医師の診察によると、肺に異常があるので専門医へ行くように勧められた。以前から気管支拡張症でかかりつけている秦野の国立神奈川病院へ出向いた。診断の結果、酸素が足りないから酸素ボンベを使用しなさいといわれた時、絶望感が体じゅうをよぎった。思案の末、医師の指示にそむいて約1ヶ月間は庭や木陰で腹式呼吸を繰り返しおこなったら十数分歩けるようになったので8月後半より江の島の海岸で深呼吸することを取り入れた。海岸は陸上より酸素の含有量が多いので積極的に実行した。11月23日は10回目の江の島行きで20分続けて歩いたと日記に残る。しかし正常に戻るには程遠い道のりである。

12月14日から15日にかけて歴史同好会の研修旅行で京都へ行くことになっている。病弱な私にとって京都行きは大冒険である。「自分の体を考えろ、仲間で大迷惑をかけるから絶対に行ってはいけない。許可しないぞ。」という主人のことは有難く受け止め、

「新幹線に乗るだけでもいい、みんなと一緒に歩くのは無理だからホテルで休んでいる、だから行かせて。」

と低姿勢になって説得した。そして出かけた。

京都駅に着くとバスで金閣寺へ直行した。足利義満ゆかりの寺を見学し、庭園をぐるりと廻って出口へ向う行程を知らず知らずのうちにみんなと一緒に歩いていた。

次は北野天満宮へと進み長時間歩いたが疲れが気にならなくなった。今迄の自分とは別人のように元気になった。ホテルの夕食も翌日の昼食（天井）もおいしく全部平げた。食欲は旺盛になるし信じられない程の変化だ。大いに自信がついた。

こうして2日間はあっという間に過ぎたが、私にとっては健康の宝をさずけてくれた記念に残る京都旅行だった。

相武台歴史同好会と私

矢野 健治

私がこの会に入会したのは平成14年（2002）年の12月でした。数年間にわたって調査した労作「畑地かんがい用水の今・相模野農民の夢のあとさき」を最終的にまとめていた時でした。

私が会の皆さんと一緒に、最初に取り組んだのは「相模原の手習い」でした。この取り組みで忘れられないのは、磯部の栗山さん宅を訪ねた時のことです。栗山半左衛門さんは幕末から明治初期にかけて塾を開き、近郷の子どもたちを教育していました。

庭にその教え子たちが師の徳を偲んで建立した、大きな石碑（筆子塚）があります。まずこれを見せていただいた後、奥の部屋から持ってきて見せてくれたのが分厚い和紙の綴りでした。小さな筆字で塾生一人一人の様子が丹念に書かれていました。私はその丁寧な一字一字に半左衛門さんの眼差しや手の温もり、息づかいを感じました。時を越えてきた不思議で新鮮な感動でした。

それから7年。私はそんな感動を求めて活動を続けてきました。感動はたくさんありました。

例えば、下溝のワサビ田跡。豊富な湧水と現地の自然条件を巧みに活用している点。その場から出てくる石で山際に石垣を造り、そこに穴をあけて湧水を多量に引き出しています。経験から生み出した巧みな智恵だと感心しました。

また、鳩川。水路を造り、川からの水量を調節して洪水で壊れるのを防ぎながら、

水車を活用している点。

一見ただけでは分からないが、調べてみるとそこには、よりよい生活を目指して懸命に智慧を働かせ、努力した生身の人々の姿が見えてきます。これからもその姿を「昔」から見つけていきたいと思います。

なんとなく　ここまで

市川　三郎

長い間この地に住んではいましたが、勤めが川崎だったこともあり、相模原のことは殆んど知りませんでした。定年退職の後、自由の身になったものの、その日の過ごし方に苦勞するようになりました。どうしても喫茶店とパチンコ屋へ足が向いてしまいます。市の広報紙に出ている市民大学の講座を見つけると片っ端から受講しました。

そんな時　広報「さがみはら」に相武台歴史同好会の記事が出て、「良い会らしいがついていけるだろうか」と思いながらも「ついていけなかったらいつでも辞められる」と気軽に考えて仲間に入れていただきました。1996年1月のことです。

歴史散歩は難しい事が分からなくても興味深く参加しました。その年の研究テーマは「磯部の屋号・呼名」でした。みんなの後について調査に加わり「なるほどこうやって調べるのか」と思いました。

次の年、何が何だか分からないうちに会長がやめ、多数の会員が去って行きました（という話が伝わってきました）。

「畑かん」というのを調べるというので、渡された資料を読み、水源池へ行き、また　畑かんに携わった人を訪ねて話を聞きました。会員の数が少なかったので、どうしても傍観者ではいられず、だんだんと深みに入って行きました。仲間と（個人的に）畑かんの跡をたどったり、一人で自転車に乗って写真を撮りに行ったこともありました。

以来十数年、「いつでも辞められる」と思っていた歴史同好会にまだお世話になっ

ています。

ふり返って

竹野和嘉子

現在では、宅地造成でおもかげもなくなりましたが、40年まえ私が相武台に住み始めた頃は、あちこちに自然が残っていました。あの 昭和50年代の 風の日には黄砂ぼこり、雨の日には ぬかるんだ道、桑畑、ススキの原が思い出されます。

或る日私は相武台公民館へと向かっていました。「私達の住んでいる町のルーツを探ろう」という講座を是非聞きたいと思ったからです。

金井先生の講義が終わり、もっと勉強を続けたいという何人かが集って相武台歴史同好会が発足しました。

金井先生を始め先生方の講義、史跡巡り、毎年テーマを決めての研究と活動の場が広がり、いろいろなことを学びました。

有鹿様

徳川中期、水は古代からの信仰の対象でした。上磯部と海老名で水もらいのケンカをし、今では水神様を祀って「有鹿様の水もらい神事」が4月8日に行われています。

勝阪遺跡

縄文飾りのすぐれた土器が出土された貴重な遺跡。

相武台

江戸時代は鷹狩の場、その後、練兵場等になり、昭和12年12月20日天皇陛下が陸軍士官学校第50期生の生徒卒業式に行幸し、学校の所在地を相武台と命名したことに由来します。八里橋なしで原っぱだったこと。

畑地かんがい事業

相模台地は八里橋なしで原っぱでした。水が乏しく、水を大地に引くことが農民

の夢でした。16年の歳月をかけ、水を流すことに成功したのですが、時代の移り変わりで無用のものとなってしまいました。

柴胡ヶ原

セリ科で根が薬草、解熱や鎮痛に使用され、税として納められていました。

桑畑

江戸時代から養蚕が盛んで「糸とりの出来ない娘は嫁にもらうな」と言われていました。

ナベトロ

相模川から鍋の型をしたトロッコに砂利を積んで運びました。

雨水調整池

雨水が集中し、ボートまで出たくぼ地に水害を防ぐために造られました。

わさび田

崖下から湧き出た水の利用でわさび田をつくりました。

等々 いろいろ楽しく勉強したものです。

今では少ない会員での作業ですが、「文化財展」「自然と文化」「歴史散歩」を全員で何か一人一役を引き受け、誰一人苦情も出ず、楽しい雰囲気の中で会が運営されていることに会の皆様に心から感謝いたします。

これからも良きお仲間を増し、歴史を愛好するサークル活動を続けて行きましょう。

「歴史同好会」に入会して

木村 保夫

最近、これまでなら気にも留める事の無かつただろう風景、小道の曲がり角、川の流れ、街のたたずまいなどに、ふと 気持を奪われる事が多い。

入会してからは何故か周りの景色が興味深く目に写る。相武台団地に住む私は

自転車を利用して他の歴史の有る地域を散策することが楽しくて神社、仏閣、古い墓地、道祖神、等々、地図を片手に、又は 行き当りを幸いに見学している。

同好会の昨年の研究テーマは「宮川の流れる谷の今・昔」だった。その流域に生息しているワサビ田、クレソン、等の栽培の歴史について調べた。源流の「十二天神社」の脇からの流れは一つの谷を潤し道保川に合流して川の名前を変える。僅かな流れの中にその歴史人々の営みが有りそして現在の状況について地元の方々に直接お話を伺う機会を持つことに同好会の意義を感じる。

おかげで、相模原に住んでいるという自覚が目覚め、この大地の自然と歴史が、こちらに住むようになってから何十年も気付かなかった小さな事が、眼に触れる度に興味をそそわれる。

先輩達の研究業績の中で「畑地かんがい用水の今」が有り、その発表の足跡を現地を踏襲するのが楽しみで、当時の写真の風景がそのまま残っていたりすると何故か一人でうなづいたりする。跡地の桜並木がとても美しく整備されていた。

最近会員の方々と課外活動として小机城に行ってきた。戦国時代の後北条氏の城だが、空堀の立派な配地と深さに皆一様に目を見張っていた様だ。相模原は後北条氏の勢力の基に有り、歴史的資料には事欠かない。数々の事跡に興味は尽きる事なく続くのだが、今年のテーマはその中の北条氏照の娘「貞心」について研究する事になった。下溝の天応院、その寺に有る墓石の見学、嫁ぐ際、氏照の命により家臣として警衛する為この地に移り住んだ子孫の方々の貴重なお話を拝聴するにつけ地元の歴史の一端が解り自分で楽しく心踊るのはとても気持ちいいのだ。

歴史同好会の入会にあたって

星野 正雄

私が入会したのは平成22年8月で、歴史同好会が今年で30周年を迎える年であります。

初例会参加の日は暑気払いを兼ねた楽しい会合でしたが、30周年の記念誌

編集の話になり大変盛り上がり緊張感が漂いました。

私としては歴史同好会をそれほど難しくは考えてなく、地域の名所、旧跡を数多く巡り知識を多く得たいと思い入会したのですが、歴史同好会の活動は活発であり、活動記録を拝見して驚いたのは相模原地域を始め神奈川県、東京都等近隣の歴史に関する場所を隈なく探索し記録に留めていることでした。

私は見学するだけで記録は取らず、今までに訪れた場所を殆んど忘れているのが現状であります。

これからは、皆様に御指導を仰ぎ地域に少しでも役に立つように頑張っていきたいと思います。



歴史散歩 照手姫の里

在籍者一覧

宮原晁二郎	久保田浩子	金子 静	羽田やすえ
谷口千鶴子	木村富美子	服部たき代	鈴木 英
竹野和嘉子	星野亀興三	仁平 正己	野口 章恵
宮永 孝子	大畑 徳子	永田 二生	磯崎 陽子
後藤きく子	八束満寿子	林 大輔	林 登代
小林八重子	平松 トク	清水 澄子	大銅 桂子
富永ナル子	山崎 弥生	久野 綾子	金成幸一郎
高橋喜久栄	岡本 芳子	金子美和子	萱野 絹江
植村 ミネ	肱岡 祐子	斉藤 英子	諸井 光子
渡辺 敦子	本田 徹	野口 章子	広重 弥
広重やよひ	安東 知子	田中 政子	中村 正子
永田カズヨ	緒方 議臣	井上千鶴子	脇川三代子
高橋 良	三井 博男	松本 一男	市川 三郎
庄司 元彦	渥美 寿夫	菊池 孝子	木挽 昌平
涌田 久子	三上 哲男	足立 三郎	和田美代子
坂田 静享	矢野 健治	白石かよ子	天沼 一仁
西貝 茂	高橋 玉江	合田 正彦	伊藤 章子
右田 順子	小川 敏夫	遠藤ヒロ子	木村 保夫
星野 正雄			



平成三十二年度会員

星野 正雄

遠藤ヒロ子

矢野 健治

竹野和嘉子

市川 三郎

涌田 久子

木村 保夫

永田カズヨ

広重やよひ

あ と が き

平成22年の夏は記録的な暑さでした。9月になっても「暑い、暑い」と言っていました。

その暑さがすうっと引いた頃、大きな記録が生まれました。米大リーグで、イチローが前人未到の10年連続200本安打を達成し、また日本の大相撲では、白鵬が秋場所に62連勝と4場所連続全勝優勝を成し遂げたのです。ちょっと信じられない記録です。

相武台歴史同好会も会の記録をまとめるため、この猛暑に負けず頑張りました。『三十周年誌』の完成をめざし、汗を拭く間もないと言うほどでもないけれど、平均年齢にしてはよくやりました。集めた原稿を整理し一冊に綴じた時は「ウソー」と思いました。

改めて 先輩たちの残した業績を掘り起こしてみて、先輩たちは なんともよくやったものだなあと感服しました。

そして私たちも先輩たちの残してくださった良き伝統を受け継いでいることに気付きました。自分の足で歩き、自分の眼で見、自分の耳で聞くこと。何かことがあれば全員がまとまって力を出すこと などです。

これまでご指導くださった方々、寄稿してくださった方々に厚くお礼申し上げます。

相武台歴史同好会 三十周年誌

発 行 平成22年 12月
発行者 相武台歴史同好会
代表者 矢野 健治
編集委員 竹野和嘉子 永田カズヨ
広重やよひ 市川 三郎
連絡先 相模原市南区相武台2-14-19
Tel. 046-253-0375
印刷所 有限会社 青史堂印刷

